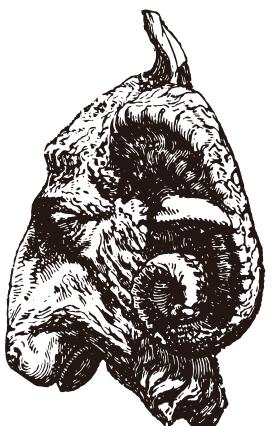


Bigakko Guide 2022

美学校
2022 年度 5 月期
募集要項



美学校



美学校基本構想

裾野に至って現代における美意識（倫理）への介入という想定に立ちつつ

現在の美学校を全構想かつ最高形態の追求として位置づける

教えをうけることを、みずからの意志として据えて、欲するものを得ることはあるとしても、

教えることをみずから意図し、果たしうるということはないのであって、

教える意思は、生徒の脳皮質をかすめて消えるのである。

総じて耳目を通し、すなわち空間を媒介として、達して頭脳にいたるコースにおいてそうなので、

脳皮質を駆撃して残るのはきわめて生理的な衝撃感ということだけであったり、

あるいは、金蒔絵に使う筆は舟ねずみの毛で作らなければいけない

といったことだけで終わるのである。

そこで、教えられる機関は考えるとしても、教える機関は考えるわけにはいかぬ。

そこで、最高の教育とは、教える意志をもたぬものから、

必要なものを盗ませるということになろうか。

美学校
1969 - 2022

第54期2022年度生徒募集にあたって

美学校は1969年に現代思潮社という出版社によって設立されました。設立された背景には、既存の学校教育に対するアンチテーゼがあったそうです。あつたそうだと伝聞形で書くのは、開校から50年を経たことによる人的、時代的な断絶があるからです。そして、それに伴って美学校も別の運動体へと変化してきました。

わたしたちは美学校をいわゆる「学校」という静的なものではなく、有機的な運動体として捉えています。ここでは美術や音楽を中心とした様々な教程を開講していますが、そこは技術や知識を体験的に身につける場であると同時に、様々な出会いや実験が起こり、そして自由と自治が存在する場にしたいと思っています。自由と自治というと難しく聞こえるかもしれません、自分たちが美術や音楽を通して勝手気ままに楽しむための場所を作りたいということです。自分が楽しむということは、興味を持って楽しめる何かを発見するということです。そして、その興味が他者や社会へと繋がることによって、世界が広がっていくのだと思います。それはわたしたちが50年以上に渡って歩んできた道でもあります。

受講にあたっては、ただ絵を描きたい、音楽を学びたいといった理由で充分です。その気持ちが大切だと思います。経験や年齢は誰も気にしませんので、勇気を持って飛び込んでください。初めてここを訪れる人はきっと美学校を変わった場所だと思うことでしょう。それは校舎が築50年以上の古いテナントビルのワンフロアであったり、古本やチラシや何だかよくわからない物あまりにも雑然としていたり、フランクな講師やスタッフがいたりするからかもしれません。ですが、そんな光景も見慣れてしまえば、特別なものではなくなります。学校では、あれをしてはいけない、これをしてはいけないと言われてきたと思いますが、本当にしてはいけないことなんてそういうはずです。ここは自由です。

教程は5月から始まり翌年の3月で終わります。この一年は長いようで短いです。美学校での一年間をどう過ごすか。それはあなたの想像力と行動次第です。みなさんや講師はもちろん、関係する様々な人々、そしてわたしたち自身にとって、これからが面白くなるようわたしたちは尽力します。

2022年度5月期教程（2022年5月～2023年3月）

3～5教程の中から複数教程の受講も、1教程のみの受講も可能です。

〈絵画〉

- 造形基礎Ⅰ
- 細密画教場
- 生涯ドローイングセミナー
- 超・日本画ゼミ
- ペインティング講座

□ **New!!** アートに何ができるのか

- イベント・プロデュース講座（募集なし）
- ※次回募集未定
- デザインソングブックス（募集未定）

〈版画／写真〉

- シルクスクリーン工房
- 石版画（リトグラフ）工房
- 銅版画工房
- 版表現実験工房（銅版画）
- 写真工房

〈作曲／作詞〉

- 楽理中等科（オンライン／対面）※1
- 作曲演習（オンライン）
- 歌う言葉、歌われる文字（オンライン／対面）※1
- 実践！自己プロデュースと作品づくり（オンライン）
- 歌謡曲～J-POPの歴史から学ぶ音楽入門・実践編（オンライン／対面）※1
- 楽理基礎科（募集なし）※次回募集は2023年度

〈現代美術〉

- アートのレシピ
- ビジュアル・コミュニケーション・ラボ
- 芸術漂流教室
- 未来美術専門学校
- 現代アートの勝手口

〈DTM〉

- 魁！打ち込み道場（オンライン）
- サウンドプロダクション・ゼミ（オンライン）
- アレンジ＆ミックス・クリニック（オンライン）
- レコーディングコース・プレミアム（オンライン）

〈様々な分野〉

- モード研究室《ファッショントレンドから》
- 実作講座「演劇 似て非なるもの」
- 特殊漫画家 - 前衛の道
- テクニック&ピクニック
- 劇のやめ方
- 意志を強くする時
- 建築大爆発
- 「おもちゃ」と「テストプレイ」のアートへ

〈研究室〉

- 美楽塾
- **New!!** 境界芸術への旅——アートとデザインと民俗学と人類学

オープン講座

■ 映画を聴く（オンライン）

- * オープン講座は入学手続きは不要です。WEBサイトの講座ページより直接お申込みください。
- * オープン講座の受講料は学費ページではなく、講座ページに掲載しております。
- * オープン講座は不定期で上記の講座以外も開講しています。詳しくはWEBサイトをご覧ください。

※1（オンライン／対面）の教程は、人数を限定しての対面とオンラインのハイブリッド形式での授業となります。対面希望者は毎回授業ごとに参加希望を受け付け、先着で対面参加頂く形になります。希望者多数の場合は均等に対面参加の機会が得られるよう調整いたします。もちろんオンラインのみのご参加でも問題ありません。

2022 年度 5 月期 時間割

	13:00 ~ 17:00	18:30 ~ 21:30, 19:00 ~ 22:00, 19:00 ~ 21:30, 他
月	・シルクスクリーン工房	・芸術漂流教室 ・特殊漫画家 - 前衛の道 (※ 1) ・テクニック & ピクニック ・サウンドプロダクション・ゼミ ・美楽塾 (※ 2)
火	・石版画 (リトグラフ) 工房 ・ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	・実作講座「演劇 似て非なるもの」 ・特殊漫画家 - 前衛の道 (※ 1) ・劇のやめ方 ・「おもちゃ」と「テストプレイ」のアートへ ・魁! 打ち込み道場 ・アートに何ができるのか
水		・細密画教場 ・版表現実験工房 ・楽理中等科 ・作曲演習 ・楽理基礎科
木	・銅版画工房 ・ペインティング講座	・生涯ドローイングセミナー ・実践!自己プロデュースと作品づくり ・アレンジ & ミックス・クリニック ・境界芸術への旅 ・イベント・プロデュース講座
金	・写真工房	・現代アートの勝手口 ・建築大爆発 ・歌う言葉、歌われる文字 ・レコーディングコース・プレミアム
土	・造形基礎! ・アートのレシピ ・未来美術専門学校 (※ 4)	・超・日本画ゼミ (※ 3) ・未来美術専門学校 (※ 4) ・モード研究室
日	・超・日本画ゼミ (※ 3) ・未来美術専門学校 (※ 4) ・意志を強くする時	・未来美術専門学校 (※ 4) ・歌謡曲～J-POP の歴史から学ぶ音楽入門・実践編

※ 1 「特殊漫画家 - 前衛の道」授業曜日は、月曜日もしくは火曜日のどちらかとなります。

※ 2 「美楽塾」の授業曜日・時間は、回によって変更になる場合があります。

※ 3 「超・日本画ゼミ」の授業曜日・時間は、毎週土曜日 18:30 ~ 21:30 (毎月第三週は日曜日 13:00 ~ 17:00) です。

※ 4 「未来美術専門学校」の授業は、時間換算で 2 ~ 4 回分の授業を土日の二日間で行います。開催週はスケジュール調整を行います。授業の開始時間、終了時間は変動します。授業は 8 月も開催予定です。

入 学 案 内

2022 年度 5 月期教程の受講を希望される方は、入学規定をお読みになってから以下の手順で入学手続きを行ってください。（オープン講座は、入学手続きは不要です。WEB サイトの講座ページより直接お申込みください。）

入学手続きの手順

1、申込み

申込み方法は二種類あります。以下のどちらかの方法でお申込みください。

・入校志望書によるお申込み

入校志望書に必要事項を記入し事務局に提出してください。入校志望書がない方は郵送いたしますので事務局までご請求ください。

・受講申込みフォームによるお申込み

WEB サイトの受講申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。WEB フォームから申込まれた場合、入校志望書を提出する必要はありませんが、初回授業日に証明写真をお持ちください。オンライン教程を受講される方は証明写真を郵送されるか、データをメールにてお送りください。

2、学費・教程維持費の納入

お申込みと同時に、規定の学費・教程維持費を納入してください。学費・教程維持費の納入をもって入学手続き完了となります。入校志望書を郵送された方、フォームから申込まれた方は、一週間以内に学費・教程維持費を納入してください。複数教程の受講などで納入額が不明な場合は事務局にお尋ねください。

3、手続き完了後から受講までの流れ

授業は 5 月 9 日以降順次始まります。4 月末日に正式な初回授業日が決定いたしますので、決定次第メールにて初回授業日と持ち物などご連絡を差し上げます。郵便での連絡を希望する方は、お申込み時にお伝えください。

入学手続き締切り

2022 年度 5 月期 一次締切り 2022 年 3 月 31 日（木）

※一次締切りの時点で定員に達していない教程は、追加募集をする場合があります。

※学期が始まってから受講を希望する場合は、事務局にお問い合わせください。教程によっては受け入れ可能な場合がございます。その場合、時期、学費などご相談に応じます。

入校志望書の提出先・学費の納付先

《提出先・納付先》

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第 2 富士ビル 3F 美学校 本校 事務局

《振込み口座》

三菱 UFJ 銀行 神保町支店 （普通）2330142 有限会社美学校 [ユ] ビガツコウ]

入 学 規 定

資格

各教程のカリキュラムに指示するもの以外、学歴・年齢・性別その他の制限はありません。

期間

授業は5月中旬から翌年3月までの定められた日程に行われますが、その間原則として、7月31日から9月4日まで、12月25日から1月4日まで休みとなります。

入学手続き

入校志望書の提出、あるいは受講申込みフォームからの申込みと学費・教程維持費の納入をもって入学手続きとします。申込みは先着順で受け付け、各教程の定員に達し次第募集を締め切ります。入学手続きをもって本規定に同意したものとします。

定員

各教程の定員はカリキュラムに明示します。ただし、申込者数が最小開講人数に達しない時は開講しない場合があります。

学費および教程維持費

・構成

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費の他に教程維持費がかかります。

・納入方法

学費・教程維持費は、現金、銀行振込、クレジットカード（VISA、MASTER）のいずれかにて、全額を一括でお支払ください。

・割引

過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

・返金

一旦納入された学費および教程維持費は以下の場合を除きご返金はいたしません。

・定員超過によって受講ができなかった場合

・申込み教程が最小開講人数に達せず開講しなかった場合

・講師の急病等の理由により開講が困難となった場合

※病気や転勤などのやむを得ない事情により受講をやめる場合は、医師による診断書や勤務先の辞令等の提示があれば、残り授業回数の80%の学費をご返金いたします。

※オープン講座は異なります。当校WEBサイトの「特定商取引法に基づく表記」ページをご参照ください。

・分納

分納を希望する方は、事前に事務局にご相談ください。分納は原則的にクレジットカードによるお支払いのみとなります。クレジットカードのお支払いは一括のみの対応です。ご自身でお支払い方法を分割もしくはリボ払いに設定していただくことにより、分割払いが可能となります。学生の方でクレジットカードの限度額が足らない方は、別途ご相談ください。

在籍証明

教程の3分の1以上を欠席した生徒は、本校に在籍したこと認めない場合があります。

注意事項

申込み内容に虚偽があった場合は入学資格を取り消すことがあります。自己の入学資格および在籍資格を他人に譲ることはいかなる場合も認めません。本校に不利をおよぼし、あるいは、みだりに授業を妨害するなどの行為をした生徒は、本校の指示により除籍される場合があります。

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費総計の他に教科維持費がかかります。教科維持費は各教科のページに記載しております。過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

- 1 教科を受講する場合は次の学費となります。

	教科名	授業料	設備費	学費総計
A 教 科	造形基礎 I	320,000	10,000	330,000
	細密画教場	320,000	10,000	330,000
	生涯ドローイングセミナー	320,000	10,000	330,000
	超・日本画ゼミ	320,000	10,000	330,000
	ペインティング講座	320,000	20,000	340,000
	シルクスクリーン工房	320,000	20,000	340,000
	石版画（リトグラフ）工房	320,000	20,000	340,000
	銅版画工房	320,000	20,000	340,000
	版表現実験工房（銅版画）	320,000	20,000	340,000
	写真工房	320,000	20,000	340,000
	アートのレシピ	320,000	10,000	330,000
	ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	320,000	10,000	330,000
	芸術漂流教室	320,000	10,000	330,000
	未来美術専門学校	320,000	10,000	330,000
	現代アートの勝手口	320,000	10,000	330,000
B 教 科	モード研究室	320,000	10,000	330,000
	テクニック＆ピクニック	320,000	10,000	330,000
	楽理中等科	160,000	10,000	170,000
	作曲演習	160,000	10,000	170,000
	実践！自己プロデュースと作品づくり	160,000	10,000	170,000
	魁！打ち込み道場	160,000	10,000	170,000
	サウンドプロダクション・ゼミ	160,000	10,000	170,000
	アレンジ & ミックス・クリニック	160,000	10,000	170,000
	レコーディングコース・プレミアム	160,000	10,000	170,000
	特殊漫画家 - 前衛の道	160,000	10,000	170,000
	劇のやめ方	160,000	10,000	170,000
	建築大爆発	160,000	10,000	170,000
	「おもちゃ」と「テストプレイ」のアートへ	160,000	10,000	170,000
	アートに何ができるのか	160,000	10,000	170,000
	美楽塾	160,000	10,000	170,000
	境界芸術への旅	160,000	10,000	170,000
	楽理基礎科	募集なし	募集なし	募集なし
	イベント・プロデュース講座	募集なし	募集なし	募集なし

C	実作講座「演劇 似て非なるもの」	270,000	10,000	280,000
D 教 程	歌う言葉、歌われる文字	110,000	10,000	120,000
	意志を強くする時	90,000	10,000	100,000
	歌謡曲～J-POP の歴史から学ぶ音楽入門	90,000	10,000	100,000

- 2 教程を受講する場合は以下の学費となります。
- 3 教程以上の受講を希望する場合は事務局までお問い合わせください。

教程分類	授業料	設備費	学費総計
A 教程 + A 教程	430,000	20,000	450,000
A 教程 + B 教程	430,000	20,000	450,000
A 教程 + C 教程	430,000	20,000	450,000
B 教程 + B 教程	280,000	20,000	300,000
B 教程 + C 教程	360,000	20,000	380,000

※ D 教程と A、B、C、D 教程のいずれか 2 教程を合わせて受講する場合の割引はありません。
それぞれの学費総計の単純合算となります。

※ 教程維持費は各教程ごとにかかります。教程維持費は各教程のページに記載しております。

- 過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、下記の通り学費の割引が適用されます。

教程分類	学費総計 → 割引後学費総計
A 教程	330,000 → 270,000
	340,000 → 280,000
B 教程	170,000 → 140,000
C 教程	280,000 → 250,000
D 教程	100,000 → 90,000
D 教程（歌う言葉、歌われる文字）	120,000 → 110,000
A 教程 + A 教程	450,000 → 380,000
A 教程 + B 教程	450,000 → 380,000
A 教程 + C 教程	450,000 → 380,000
B 教程 + B 教程	300,000 → 280,000
B 教程 + C 教程	380,000 → 340,000

※ D 教程と A、B、C、D 教程のいずれか 2 教程を合わせて受講する場合の割引はありません。
それぞれの学費総計の単純合算となります。

※ 教程維持費は各教程ごとにかかります。教程維持費は各教程のページに記載しております。

※ 教程維持費の割引はありません。

オンライン教程の使用ツールとガイドライン

オンライン教程の使用ツールについて

全てのオンライン教程に共通して授業では主に以下の2つのツールを使用します。

ZOOM——授業プラットフォームです。アプリ版の使用を推奨しますが、ブラウザからの参加も可能です。

Discord——授業補助として利用するチャットツールです。各教程ごとにクローズドのグループを作成し、そちらで毎回の授業リンクをご案内します。そのほか課題提出、コミュニケーション等のプラットフォームとして使用します。

オンライン教程についてのガイドライン

当校ではオンライン教程の開講にあたって、受講生のプライバシーや個人情報の保護に配慮し、以下のガイドラインを定めています。受講に際しては、下記をご了承のうえお申し込みください。

1) プライバシーと個人情報に関して

- ・授業中の顔出しは任意です。プライバシーが気になる方はカメラをオフにしてご参加ください。
- ・学習目的以外でのZOOM画面やDiscord、講師による共有画面のスクリーンショットはお控えください。
- ・学習目的で講師画面や板書をスクリーンショットする際は、他の受講生が写り込まないようご配慮ください。
- ・スクリーンショット画像の第三者への譲渡や開示、SNSへの投稿などは固く禁じます。
- ・Discord上で行われたやり取りに関して、特に個人情報を含むものは第三者への開示、SNSへの投稿などはご遠慮ください。ただし、個人的な感想や意見等についてはその限りではありません。
- ・授業画面のスクリーンショットなどを広報に利用させて頂く場合があります。その際は原則として受講生の画像・画面にはモザイク・ぼかし処理を行い、個人が特定されない形で使用いたします。
- ・Discord上のダイレクトメッセージなど受講生同士による個々のやり取りは良識の範囲内で行ってください。
他受講生への迷惑行為が確認された場合は即座にDiscordの利用を停止いたします。
- ・必要に応じて受講生に授業内容のアーカイブ動画を提供します。アーカイブ動画の第三者への譲渡や開示、SNSや動画サイト等への投稿を行うことはありません。また、同行為を固く禁じます。なお、アーカイブ動画提供の有無については教程ごとに異なります。詳しくは個別の教程ページをご確認ください。

2) 課題作品や配布物について

- ・課題作品はDiscord上の指定されたチャンネルに提出いただき、受講生全員で共有されます。
- ・授業で用いる教材も同様にDiscord上にて配布します。
- ・提出された受講生作品や配布物の第三者への開示、SNSへの投稿等は固く禁じます。
- ・提出された受講生作品の権利は作者に帰属します。提出された他受講生の作品を参照したり、リミックス等で二次的に使用する際は、お互いに承諾を取り、作品へ敬意を持ってお取り扱いください。

3) セキュリティについて

- ・ZOOMの授業リンクは都度生成し、パスワード保護されます。参加にはスタッフの認証を設けていますので、第三者が無断で入室することはありません。ただし、複数の事務局スタッフが立会いのため予告なく参加する場合があります。
- ・セキュリティ向上のため、ZOOMは最新版をインストールするようしてください。
- ・Discordグループは受講生と講師、スタッフのみ参加を許可されます。第三者が無断で参加することはありません。
- ・主にWindows環境においてDiscordにマルウェア感染被害が報告されています。対策としてアプリケーションの再インストール、或いはアプリをインストールせず、webブラウザから仮アカウントを用いて使用頂くことで対応が可能です。事前に対策をご確認の上、ご了承の上受講いただけますようお願いします。

4) オンライン授業の見学について

- ・本校では受講を検討されている方の授業見学を随時行っており、オンライン授業も同様に見学が可能です。そのため、受講中の授業に見学者が参加する可能性があります。見学者にも受講生と同様に講座を体験していただくため、授業内で配布した資料や受講生の提出作品などは同様に見学者にも閲覧や視聴が許可され、必要に応じてデータが譲渡されます。
- ・見学者による授業内で配布された教材や作品の第三者への開示、SNSへの投稿等は固く禁じます。場合によってはデータの破棄にご協力ください。

説明会／見学・受講相談

説明会

下記の日程で募集教程の説明会を開催します。受講方法や各講座についての説明に加えて校舎案内を行います。説明会後には個別の入学相談も可能です。各回 90 分程度／定員 8 名。会場は本校です。

参加をご希望の方は QR コードからか、メールか電話にてお申し込みください。

※複数の学科に渡って興味がある方は、説明会よりも個別の受講相談がおすすめです。

説明会申込み QR コード



《絵画、版画／写真、現代美術、研究室》

1月 16 日（日）19:00～ 2月 17 日（木）19:00～ 3月 13 日（日）15:00～

《様々な分野、研究室》

1月 23 日（日）15:00～ 2月 20 日（日）19:00～ 3月 3 日（木）19:00～

《作曲／作詞、DTM》

1月 20 日（木）19:00～ 2月 13 日（日）15:00～ 3月 17 日（木）19:00～

見学・受講相談

授業見学および受講相談は随時受け付けております。

学校の雰囲気、講座の内容から、どの講座が合っているかなどの個人的なご相談まで、受講をご検討中の方もそうでない方も、お気軽にお越しください。

ご希望の方は QR コードからお申し込みになるか、メールか電話にて希望日をお問い合わせください。

受講相談はオンライン（ZOOM）でも可能です。

見学・受講相談申込み QR コード



造形基礎Ⅰ

鍋田庸男

定員：12名

授業日：毎週土曜日 13:00～17:00

教課程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

造形基礎とは、形（カタチ）を造る基（モト）という意味です。

形=カタチとは「表わされ、現れたもの」すなわち表現されたモノです。

一枚の葉っぱを手に持ります。目で、指先で、肌で、それぞれの記憶と、経験と、知識で、テーマは個々のうちにあって、無数のカタチをひきだすことが可能でしょう。見て、掘んで、感じて、思索する。表現するということは「カラダまるごと」のことです。

表現とは「もっと、いろいろなこと」であっていい。

ここではまず木炭で描くことからはじめます。

上手に描くことではありません。モノ（事）と対峙し、観察し、考察し、記録することです。表現とは、技術ではありません。技倆は、自らの表現と共に成長するものです。まずははじめに大切なことは、技術や描き方ではなく、対象への接し方であり、対象との交流とその共有を楽しむことです。

ボクサーは、はじめに、なわ跳びを繰り返し行います。より強靭な精神、より柔軟な体、的確なパフォーマンスは、そのうえに築きあげられるものです。

対象へのひとつひとつのアプローチの繰り返しのなかから、より自由で、真に独創的な自分のカタチを求めて、表現者としての、最初の意志と体力を、見つけ出し確立してもらいたいのです。

私達が表わす「カタチ」は未知なるものへの冒険です。

やればやるほど、本気になればなるほどオモロイもんです。

今。私達が「やること」は、いっぱいあります。

授業内容

- 表現現場に身をおくこと
- 課題をその場で制作する
- 速描画=短時間にたくさんのドローイング

精神集中、習性の確認と放棄、手の訓練、頭の柔軟体操とオートマティズム

【前期】

- ◆植物・静物・人体による観・考・描察画モノを見て触れて表現者としての最初の自覚をうながす

【中期】

- ◆色・形・素材そして対象と表現について
- ◆モチーフそれ自身の設定（表現）
「描く」という行為から「つくる」という表現へ
- ◆切る・貼る（色紙その他）立体もしくはレリーフ

【後期】

- ◆自由制作
- ロールペインティング=つづき絵（絵巻物）の制作

造形基礎Ⅱは「ものづくり」への構想をもって活動します。

鍋田庸男

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 造形基礎 レポート（またはインタビュー）

細密画教場

田嶋徹

定員：12名

授業日：毎週水曜日 18:30～21:30

教程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校またはスタジオ

細密画は鉛筆や絵具の粒子を一筆一筆おいていき、長い時間かけて一つの作品を仕上げる根気のいる作業です。

まずものをよく見て、それを手に伝え、紙に描かれた像を見ることが脳にフィードバックされて、さらにものの見方が深化していく。

細密画の描き方を言葉にすると、このようになりますが、実際には一連の作業を、無意識下に、並列的に行っています。

そのような作業の回路が体の内にできて、いつでも取り出せるようになることそれが技術が身につくということです。

一年間で完成するというものではありませんが、その回路はこれから独自の技を磨いていくきっかけになるようなものです。

授業は週に一回しかありません。その何倍も自習しなければ一年が無駄になりますのでそのつもりで。

田嶋徹

授業内容

下書き

- モチーフをどの大きさで描くか、から始めて細部いたるまで、フリーハンドでかたちをとる技術
- 道具を使ってモチーフを計測して描く技術

鉛筆

- 明暗の階層表現、質感表現の技術

水彩

- 色調表現、質感表現の技術

その他

- 平面画像の模写
- 不透明絵具の描法

[生徒持ち用具・材料]

鉛筆各種・カッターナイフ・芯研ぎ器・練りゴム・消しゴム・羽ばうき・スケール定規・比例ディバイダー・トレーシングペーパー・カーボン紙・ケント紙・固形透明水彩絵の具各色・コリンスキーピン・ベニヤ板・水張りテープ・刷毛・アルシュ紙極細目・筆洗い器・梅皿
その他

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 細密画 レポート（またはインタビュー）

生涯ドローイングセミナー

宮嶋葉一+O JUN+丸亀ひろや

定員：10名
授業日：毎週木曜日 18:30～21:30
教程維持費：10,000円（年額）
開催教室：本校

毎回のセミナーではドローイングの制作を行いますが、さてドローイングとはどういうものでしょう。これは Drawing と書いて英語で、"線を引く。図面"などを意味します。美術の世界では、紙などに鉛筆やペン、水彩などで描かれた表現形式を言います。そこで試しに紙の上に鉛筆で線を引いてみます。ところがその途端にドローイングという言葉や意味が少し足りない、あるいはボンヤリしてしまうことに気がつきます。これは言葉の間違いや不足ではなく、また君のイタラナサかもしれません。君が、「この世」に線を引いたり色を塗ったりしたことで沈んでいた澱みを搔き起こしてにがらせてしまったからで、その"混濁"を表す言葉が見つからないのと、たかが一本の線を引いた事の意味や理由がそう易々と見つからないからです。それをこれから生涯かけて探しに行きます。その長大な時間も"ドローイングする"と言ってもいいかも知れません。取りあえず今年がその一年目になります。

紙ならどんな紙でも、また描ける材料なら鉛筆といわずどのような画材でも結構ですので持参ください。教室では制作の他にいろいろな作家の方をお呼びして話をうかがったり、展覧会を見に行ったりします。

週に一回ドローイングの実習を行います。そのために各自持参するものは、紙、油彩以外の画材や筆記具（水彩、墨、鉛筆、クレパスなど）。尚、画材については隨時その使用法や種類の説明をします。また、一年間の実技演習において"描くこと" "描かれたもの"の意味をたえず自らに問い合わせながら描きためたドローイングで"マッペ"（ドイツ語のファイルの意。当ゼミではドローイングブックを意味する）を制作し、卒業制作展を行います。

宮嶋葉一

画家。1954年大阪府生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画修士課程修了。1988-98年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。具体的な対象をモティーフに簡略化された線と強いストローク、対象に意味を持たせないスタイルが特徴。簡素化された構造と内包するユーモアのセンスが楽しめる作品を一貫して制作。

OJUN

1956年東京都生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士修了。1984-85年スペイン・バルセロナ滞在。1990-94年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。絵画・ドローイング・版画と、さまざまな媒体の平面作品を制作し、身の回りの日常的な対象を自身の視点で新鮮に捉え、その絶妙な線や色、空間は、見る者に新たな視点を与える。

丸亀ひろや

1961年熊本県生まれ。1986年東京造形大学造形学部美術学科卒業。66-90年ドイツ・デュッセルドルフ美術アカデミー絵画専攻。91-94年ドイツ・デュッセルドルフ大学美術史専攻。おもに平面作品を制作。目の前の対象や印刷物の図像から抽象的な事柄まで様々なテーマを雑食的にドローイング、そこを足掛かりにした絵画作品は抑制が効いているがどこか即興の愉楽がある。

O JUN

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、修了生座談会掲載中

→ 検索 美学校 ドローイング レポート（または座談会）

超・日本画ゼミ（実践と探求）

間島秀徳+小金沢智+後藤秀聖

定員：10名

授業日：毎週土曜日 18:30～21:30

(毎月第三週は日曜日 13:00～17:00)

教課程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

日本画を学ぶということは、素材や技法を習得することに留まらず、絵画原理を探究することです。しかしながら現在は、美大での日本画教育が一般的であり、課題から自由制作へ至るカリキュラムは画一化されたものとなっています。

かつて日本画を学ぶ場では、小規模な塾制度の中で日々修練を重ねていました。時代背景こそ異なりますが、現代に応用することは可能なはずです。

本講座では、自立した作家として歩み出せるように、課題に真剣に取り組むだけではなく、さらに実践のための可能性を探求し続けます。具体的には個別の面談に始まり、作画意識の確認をします。その後は毎回講義と実践がスタートすることになりますが、内容は基礎素材論（支持体、描画材、色材等）に始まり、技法や模写についても習得の方法を探っていきます。他には写生や下図などの、絵画制作に必要な準備の方法を習得するために、古典から現代までの作家や作品研究をゼミ形式で随時開催します。

教室での制作時間は限定されますが、毎月講評会を開催します。ここでは講師が一方的に語るのではなく、作者は作品についてプレゼンを行い、参加者全員がディスカッション形式で意見を述べ合います。

超・日本画ゼミでは、今の時代を作家として生き抜くために、あえて超という言葉を付けました。飛躍のためには徹底した探究が必要です。経験、未経験は問いませんので、やる気のある方は是非参加してください。

間島秀徳

ここにあるのは、「あなた」の「美」のための「現場」です。日本画にまつわる素材や技法、歴史や理論を学ぶのは、読書会をするのは、展覧会やギャラリーを見学するのは、はたまたスケッチや研修のために各地へと合宿するには、あなたが博識になるためでも、わたしたちが親しくなるためでもなく（それもなくはないですが）、それが「あなた」の「絵」の「武器」になると講師が信じているからです。ですから超・日本画ゼミは、一方的かつ形式的な「授業」は基本的に行わず、あなたがどのような人で、何をしたいのか、そのことをとても重視します。受講時の知識・経験はまったく問いません。受講生だけではなく、講師とともに、自分自身を「超え」と切磋琢磨する絵画の現場——それが超・日本画ゼミだからです。

小金沢智

日本画に応用される素材と表現技法は、時代ごとに多元的な変化を伴いながらも、古来より脈々と受け継がれてきた伝統があります。

本講座の基礎素材論では、日本画素材の一般的な使用法はもとより、素材そのものが生み出される現地をフィールドワークしたり、製造者・職人の方々へのヒアリングを実践しようと思います。

ときには「美術」を越境しながら、素材の向こう側にみえる自然風土、人びとの技術や恵みに目を凝らすことは、自らの「描くこと」、「表現」することそのものを、新たな視点からみつめ直すことにつながります。

思えば遙かむかし、しっかりとした言葉を使う以前より、「美術」の登場する以前より、ヒトは壁に絵を描くこと自体を、「生きること」の一部としてきました。だからこそ、その表現方法を支えてきた素材を探求することは、これから描きたいと思うあなたたちを、豊かにしてくれると思います。

後藤秀聖

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 日本画 レポート（またはインタビュー）

授業内容

基礎素材論

- 支持体（和紙、布、板等）
- 描画材（筆）
- 色材（岩絵具、水干、アクリル等）
- 接着剤（膠、アクリル樹脂等）
- 墨、硯

制作（個別面談随時）

- 講評会（毎月）
- 写生、下図研究

古典絵画から現代絵画まで

- 技法（水墨等）
- 模写（臨写他）
- 作家研究
- 作品研究
- 読書会
- 修了展

客員講師予定

- 美術評論家
- 美術館学芸員
- 美術史研究者
- 伝統職人
- 現代作家

研修

- 美術館、博物館見学
- ギャラリー見学
- 筆工房、紙漉き工房見学
- 古美術研修（国内、海外）
- 自然研修（海、山）

ペインティング講座 - 油絵を中心として ～絵を見て、考えて、描く そして自分の絵を描く～

長谷川繁

「絵を描く」ことは誰にでも出来ることであるし、一番根源的な表現の一つである。画家はもちろんファッショントレーナー、建築家、映画監督、アニメーター、パティシエ、様々な職業の人が、まずは絵を描きイマジネーションを具体化させ発展させていく。どんな材料でも良いし、紙とペンがあれば何かが描ける。そんなシンプルなことであるが故に、やればやるほど奥が深く掘っても掘っても尽きない面白さと難しさがある。そして何より「自分の絵」というものを見つけて描くことが一番難しいことである。

二十世紀以降の絵画はどんどん複雑化し、ひと言では言えないくらい内容も意味も材料も多岐にわたり多様なモノになってきた。写真のように見えたままを写すことだけでもなければ、単に美しいものを描くだけでもない。感情をぶつけるものもあれば、色が一色だけの絵もある。描く人の数だけ違う価値観の絵があるとも言える。そんな中で自分は「何」を「どのように」描くのだろう。

これから絵を描くことを始める人も描いてきた経験のある人も、あらためて考えながら自分の絵を探していくような時間にしたい。絵を描くのと同時に「私は何故絵を描くのか？」と「どのような絵を描きたいのか？」の両方を考えながら絵に向かっていきたい。

絵を描くための様々な材料、基本の技術、絵の中身、考え、会話をしながら探っていく作業をしたい。

かと言って気難しいものでもない。肩の力を抜いてかかった方が、より自分らしいものになることもある。失敗したって次の紙、次のキャンバスにすれば良いだけだし、痛くも痒くもない。そこが良いところでもある。

油絵を中心としながらも、アクリル絵の具、水彩なども含めて幅の広い表現を試みていきながら素材自体も自分で選んで絵を描いていく時間にできれば、と思っている。気楽に何でも挑戦して、質問して、話し合って進めていける場としたい。

どんな人でも絵は描ける。気楽にやってみませんか？

定員：8名

授業日：毎週木曜日 13:00～17:00

教程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

長谷川繁

1963年滋賀県生まれ。1988年愛知県立芸術大学大学院絵画科油画専攻修了、1989～92年ドイツデュッセルドルフクンストアカデミー、1992～94年オランダアムステルダム デ・アトリエーズ在籍、1996年帰国。東京を中心に個展、グループ展多数。帰国後自由が丘に展示スペースを設立し2004年まで若手アーティストの展覧会を企画継続した。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 ペインティング講座 インタビュー

シルクスクリーン工房

松村宏

定員：10名
授業日：毎週月曜日 13:00～17:00
教課程維持費：30,000円（年額）
開催教室：本校

シルクスクリーン工房はプロフェッショナルとして立てるだけの技術を獲得し、版画にとどまらず、美術、デザイン表現の可能性を広げようとする工房です。

カリキュラムは厳しくも、バラエティに富んだ設定にしてあります。まずは基本的なトレーニングから始めましょう。手刷りですし、全ての工程を自身で進めることになります。1年をかけて制作作業を自分のカラダに覚えさせてください。

創作のアイデアは今までに見聞きしてきた情報からではなく、作業を進める行為、特に失敗の中から現れます。経験の有無よりも、粘り強い気持ちが求められます。

授業は週に1度ですが、1年間集中してシルクスクリーンに取り組みましょう。困難を乗り越える喜びを共有できる場でありたいと考えます。

松村宏



授業内容

【前期】

○シルクスクリーンプリント概論

○資材各論

写真製版法

感光製版材の研究

課題 I

　　フィルム・カッターワークへの習熟

課題 II

　　描画フィルムの製版

【夏季休暇・色彩研究課題】

【中期】

写真製版以外の製版法

素材・紙・インクの対応研究

課題 III

　　原紙の活用

課題 IV

　　ブロッキング法・フロッタージュ他

【後期】

各自の方向により、

コラージュへの展開

ファブリック他の素材への対応

【生徒持ち用具・材料】

アルミ枠・スクリーン・製版用具・感光製版材・カッター・砥石・スケール・版画用紙・水彩絵具 等

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 シルクスクリーン レポート

石版画（リトグラフ）工房

佐々木良枝+増山吉明

定員：10名

授業日：毎週火曜日 13:00～17:00

教程維持費：20,000円（年額）

開催教室：本校

石版画（リトグラフ）は、平版の版画です。平らな版材の上に油成 分を含む画材（墨、クレヨン、鉛筆等）で描いたものを直接版にして刷ります。クレヨンや鉛筆で描いたドローイングの自由な線や風 合いを出すことができ、また、筆やペンで描いた水彩画のタッチや にじみ、複雑な色合いを出すこともできます。版画の技法の中でもつ とも絵画に近いといえます。

石版画（リトグラフ）は水と油が反発する原理を応用し、描いた絵 を化学変化させて版にし、描画部分にのみインクを付着させ、プレ ス機で刷ることで絵を創ります。化学変化をさせて作る版である為、 描かれた画面が自分の意に反して、抑揚の無い平板な調子の乏しい ものになったり、絵が壊れたりすることもあり、「描き」「版作り」 「刷り」の技術や知識を習得する必要があります。

当工房では、石の版を使って技法を学びます（特殊な石であること や作業に水場なども必要なため、石を使っての作画が出来る工房は あまりありません）。石の版、また、金属版（アルミ版）、を使った 技法やP S版による写真製版技法も学びます。それできあがる 版の具合が違うので、特質を知り、活用できるとより幅広い表現方 法を持つことができます。

石版画（リトグラフ）は、さまざまな"描く"で自分の絵画表現を 探求することが可能です。描くでも版を媒介とするので、思いがけないものにも出会ったりする喜びがあります。自分のイメージに接 近していくには、手を動かし絵を描き、絵を創りあげていくことで す。そうすることで、自分の方法を見つけていくのではないでしょ うか。

佐々木良枝

授業内容

【前期】

- 石版による制作（石の研磨・描画・製版・刷り）クレヨン画、ペン画、解き墨画
- P S版（写真製版）による制作（描画・感光製版・刷り）コラージュ、フロッタージュ、ドロッピング等

【中期】

- 石版石による制作
- P S版多色刷りによる制作
- 表現について考え、自分の表現方法の模索・構築
- アルミ版による制作

【後期】

- 自由制作
- 制作発表の方法論学習（作品の見せ方、空間づくり等）

【生徒持ち道具・材料】

描画材料 クレヨン・解き墨・筆・インク・アルミ版・P S版その他
版画用紙 あて紙・試し刷り用紙・本刷り用紙

表現のために／自分を貯める—構築する

- 探し取材する・切り取る・決める・盗み取る等の作業
「かわいい」「きれい」「かっこいい」「おもしろい」自分が心惹かれるもの、おもしろいもの…自らを動かしする動機（モチーフ）
- よく観察する・考察する・認識する
何故それがいいか、どんな方法だから、こんな風に見えるのか、自分の嗜好、好むのをより認識する
- 言葉にする
観察して、考察して認識したものを言葉にする。思考し、曖昧とした考えを明確化する、潜在意識が引き出される
記憶は薄れる、言葉にしたもののは残る
- 貯めていく
人に自分の言葉を示し、人とディスカッションすることで、より明確化し、付け加えられる
- 貯めていく
貯めたものを増やしていく、連想を広げ、よりイメージ化する、たまたま情報を編集する。どんな表現方法で何を表現するか思考する／一つの表現方法として、この工房では、リトグラフを制作する。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 リトグラフ レポート

銅版画工房

上原修一

定員：10名

授業日：毎週木曜日 13:00～17:00

教程維持費：20,000円（年額）

開催教室：本校

銅版画という方法を使った「絵」を制作します。

銅版画の特徴として、ひとつは凹版であることがあげられます。もうひとつは、ほかの版種と同様に「版」を用いた間接表現であることです。約1ミリの厚さを持った銅の板の表面に、何らかの技法で点や線を刻みつけます。

制作者のイメージや意図に基づいて点や線が刻みつけられた瞬間に、銅の板は「版」に変わる。その、点や線（凹部）に銅版画用インクを詰め、紙に絵柄を刷り取ります。

大切なのは、いかに美しい版を作るかではなく、その版を通して刷り上げられたもの（つまりは作品ですが）が「表現」になっているかどうかということです。

直接描いたのでは決して得られない点や線、あるいはマチエールを生み出す力を銅版画は持っています。

あくまでも基本的な銅版画の技法に拘りながら、さらにその可能性について考えていきます。

授業の前半期では、ドライポイント、エッチング、アクワチントといった銅版画の基本技法と、インクの詰め、拭き、修正、プレス機の取り扱いなど、刷りの基本技術とを学びます。なるべく早い時期に、工房での自習が出来るスタンスを確立します。

後半期は、ディープ・エッティング、ソフトグランド、写真製版、コラグラフなどの版作りの応用技法と、多色刷り、雁皮刷りなど様々な刷り方について学びます。多様な銅版画のテクニックを、体験則としてひと通り知って貰うためのプログラムを展開します。

ときどき合評会もやります。けれど、課題のようなものを求めるとは一切しません。

作りたい人の作りたい気持ちを最優先に実現できる、本当の意味での自由な工房を目指しています。

受講生同士はもちろん、受講生と講師も、忌憚なくお互いを評価、批評し合える関係でありたいと思います。

確信的なものでも、あるいは全く漠然としたものでも構いませんが、銅版画に対する憧れを持った人の受講を望みます。ここは一度嵌まつたらとにかくなかなかに深い場所です。



クラウン

エッティング、アクワチント、ドライポイント、コラグラフ
558mm × 450mm
ed.12, a.p.3 2版2色刷り サマセット紙



トーフルの下の私の荷物

エッティング、アクワチント、ディープ・エッティング、ソフトグランド、コラグラフ
725mm × 593mm
ed.2, a.p.なし 17版2色刷り 雁皮漉き合わせ紙

上原修一

☆もっと詳しく知りたい方は ...

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 銅版画 レポート

版表現実験工房（銅版画）

清野耕一

定員：10名

授業日：毎週水曜日 18:30～21:30

教程維持費：20,000円（年額）

開催教室：本校

銅版画（凹版）の制作は、薄い銅版表面で繰り広げるマイナスの作業といえます。直接鋭利なニードルで引搔いたり、強酸の力で腐食（エッチング）したり、様々な薬品や道具を使い随分と手荒なプロセスを踏みます。このように出来上がる銅版の原版は、その凹部に詰められたインクとエッチング・プレス機の物凄い圧力によって、最終的に紙の表面に反転しプリントされます。・・・・この瞬間、皆さんには銅版画の表現効果に魅了されるでしょう。鋭く自在な線、微妙で繊細な濃淡面、重厚な質感。

・・・・その転写されるイメージは、ドローイングやペインティングと全く異なるからです。

世界的なIT化とグローバル化が急速に進む中で、私達の日常生活にも「デジタル・カルチャー」が浸透し大変化をもたらしています。「効率化・便利さ」を追求する社会的なうねりは、一方で機械に頼りながら、汚れ仕事を嫌い、面倒くさいことを避ける行動を私達に植え付けていると云えるかもしれません。「自らの手を使い、身体を動かし、汗を流し戦闘する姿勢」を拒む風潮の中で、大切な何かが失われようとしているのでしょうか。

「版表現実験工房」は、そんな問い合わせに対応しながら、初心者のみならず、銅版画や他版種の経験者にも門戸を広げる場です。銅版画制作のための技術力を習得するだけでなく、直接銅版と触れ合うことによってモノ作り本来の楽しさを経験し、美術表現を創造する「発見」の場を目指します。同時に、絶え間ない地道な制作を通じて「自己を見つめる姿勢を培うこと」に重点を置きたいと考えています。

従来の「オリジナル版画」（平面・複数性を土台とする版画表現）の垣根を取り払い、柔軟に他のメディアとの交差を図り、新たな表現スタイルを研究し模索する実験的な制作現場になることを目標とします。この工房の参加者は、より積極的な制作意欲と発表の機会設定が求められます。

参加者の年代・経験・背景を超えて「互いが刺激・影響し合える制作現場」になることを期待します。

清野耕一

☆もっと詳しく知りたい方は ...

WEBで講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 版表現 インタビュー

授業内容

【前期】

彫刻技法の基礎研究と制作（ドライポイント・メゾチント）
腐蝕技法の基礎研究と制作（エッチング・アクアチント）

☆前期講評会

【中期】

腐蝕技法の応用研究と制作（リフトグランド・ソフトグランド）
刷り技法の応用研究と制作（雁皮刷り・凹凸版刷り・多色刷り）

☆中期講評会

【後期】

写真製版技法の研究と制作（フォトエッティング）
併用技法による自由制作
☆後期講評会

【研究課題】

- A) 複数性と間接性
- B) 版の表面性と被写体
- C) 3次元の平面構成
- D) メディア・ミックス

【生徒持ち道具・材料】

銅版・版画用紙・ニードル・スクレッパー・バニッシャー・作業着・腐蝕用ゴム手袋 他

写真工房

西村陽一郎

定員：10名
授業日：毎週金曜日 13:00～17:00
教課程維持費：20,000円（年額）
開催教室：本校

モノクロフィルムや印画紙などの感光材料を使って、昔ながらの銀塩写真の基礎を学ぶ工房です。暗室作業が中心です。光と感光材料の関係、カメラの持ち方やフィルムの入れ方など、初步的なところから順を追って実習を進めていきますので、まだフィルムカメラを持っていないという初心者の方でも大丈夫です。

基本的にピントや露出はマニュアルで撮影します。慣れない操作に手間取って初めは思ったような瞬間が撮れないかもしれません。またフィルムや印画紙、薬品類など銀塩写真で使用する材料はデリケートなので、丁寧に取り扱ってあげなければせっかく写した光も、きちんとした像（かたち）となって現れてはくれません。ある程度のクオリティでモノクロ写真を撮影しプリントができるようになるまでには少し時間がかかることを覚悟して、まずは自分で撮った写真を自分で現像し、引き伸せるようになります。そして毎週1回、これをこつこつと続けて下さい。一通りのやり方を覚えた後、学校の暗室は授業日以外も自由に使えるようになりますので、やりたいひとは何度でも、納得がいくまで制作をする事ができるでしょう。

大切なのは、自分の好きな写真となるべくたくさん撮って、たくさんプリントする事です。

一年間あつという間だと思いますが、皆で共に楽しみながら、真剣に写真を取り組んでいきましょう。

西村陽一郎

授業内容

【前期】

- ・暗室体験
(フォトグラム、サイアノタイプ、ピンホール)
- ・モノクロ写真の基礎
(撮影、現像、ベタ焼き、プリント、スポットティング)

【中期】

- ・作品の仕上げ方
(ドライマウント・マッティング)
- ・暗室実習
(号数合わせ、焼き込み&覆い焼き)
- ・撮影実習
(フラッシュ、クローズアップ)
- ・中判カメラ

【後期】

- ・大判カメラ
- ・調色
- ・作品制作

【生徒持ち道具・材料】

35mm一眼レフカメラとレンズの他、感光材料と薬品、整理・保存用品などの消耗品

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 写真工房 レポート（またはインタビュー）

アートのレシピ ～松蔭浩之のラディカル・ヒストリー・アワー～ 松蔭浩之+三田村光土里

定員：12名
授業日：毎週土曜日 13:00～17:00
教程維持費：10,000円（年額）
開催教室：本校

せっかくだから、ちょっと変わったことを言っておこうと思います。いや、そもそもこの「変わったこと」について思いを巡らせること、人のやつてないことを考えだして、ひねりだして形にすることこそがARTの真髄なんですが……その、「変わったこと」ですから、最初は全くもって理解不能かも知れず、あなたの普段の価値観とか常識とか正義感とか人生設計とかとはけっこうズレたりしているかもしれない。けれども、気持ち次第では実に面白可笑しい人、作品、出来事、あなたのきっと知らない古今東西の本物の変わりモノを紹介しつつ、やはり「変わった」考え方、見方、とらえ方をしてみることで、新しい刺激的な経験になりうるというお話を長い間続けています。

例えば、100年ちょっと前になりますが、ヨーロッパで起こった反芸術活動『DADA』と、1960年代に日本で制作放送された子ども向けテレビ番組『ウルトラマン』との関連を考察し、「怪獣」を解剖してみるとか、「80年代初頭に全世界的に突然変異のように起こった、DIY精神に満ちあふれたロックバンドやミュージシャンたちの奇跡から学ぶとか、私が19歳から3年間師事した森村泰昌はじめ、先人たちから培つて確立した「私の写真論」をもとにセルフポートレイトを実践する……など、松蔭浩之の自己史における、ラディカルな事象を吟味検証して紹介、流行り廃りに左右されない普遍性の探求、その追体験と伝承、すなわち、ラディカル・ヒストリー・アワーを共有することが、この講座最大の特徴です。

この『レシピ』では、俗にいう「現代アート」に限らず、音楽、映画、サブカルもアングラも含めた文化全般を視野に入れた講義、ワークショップを実施します。かならずしもアーティストを養成することが目的ではないですが、節々でアートの実践を体験してもらうことで、クリエイティビティ（＝創意工夫）の本質を知ることを目指します。

不定期に開催の「三田村光土里のときどきアートサロン」では、三田村光土里が豊富な経験とインスピレーションで、制作のお悩みをコンサルティングします。

変わったことが好きではない。もしくは、変わることを恐れる方にはオススメできませんが、好奇心おう盛で柔軟な思考性を持つあなたには最適の講座になることでしょう。

松蔭浩之



松蔭浩之（まつかげひろゆき）

現代美術家、写真家。福岡県出身。

1988年大阪芸術大学写真学科卒業。

1990年アートユニット「コンプレッソ・プラスティコ」でベネチア・ビエンナーレに世界最年少で選出される。以後、数多くの国内外個展やグループショウ、シンガポール・ビエンナーレ（2006年）ほか国際芸術祭に参加。写真作品を中心にインスタレーション、パフォーマンス、ミュージシャン、執筆、グラフィックデザイン、俳優、映画監督など多岐に渡って活動を続ける。アートグループ「昭和40年会」（1994年結成。現メンバーは会田誠、有馬純寿、小沢剛、大岩オスカール、パルコキノシタ、松蔭浩之の6人）では会長を務める。

宇治野宗輝とのロックデュオ「ゴージャラス」（1997年結成）では国内外でのライブを盛んに行つた。また、2016年再始動したポストインダストリアルグループ「PBC」（1987年結成）でも演奏活動を続ける。俳優としては金子雅和監督『アルビノの木』など数々の作品に出演。監督作品は、画家の会田誠を主演に起用した『砂山』（2012）、若林美保主演の『LION』（2018）がある。

三田村光土里（みたむらみどり）

愛知県生まれ 東京在住

「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、写真や映像、言葉や日用品などの多様なメディアで構成した空間作品を国内外で発表。私的な追憶から浮かび上がる不在感や、日常の哀愁や感傷を観る人の内側に投影する。

世界各地で人々と朝食を共にする滞在制作“Art & Breakfast”では、フィールドワークで集めた材料でインスタレーションを作り続け、文化的な境界を越えて共感する価値観をユーモアと批評的な眼差しで俯瞰する。

2003年、日本の新進作家展・vol.2（東京都写真美術館）。

2005年、文化庁新進芸術家海外派遣（フィンランド三都市巡回個展）。2006年、ウィーン分離派館・セセッションにて個展。2011年、二国間交流流事業プログラム派遣（メルボルン、オーストラリア）、あいちトリエンナーレ2016。2017年、ウィーン美術アカデミー滞在招聘作家。2019年、Japan Unlimited展（ミュージアム・クォーター・ウィーン）、他多数。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、修了生座談会掲載中

→ 検索 美学校 アートのレシピ 講座レポート

ビジュアル・コミュニケーション・ラボ ～ゼロから始める現代アート制作～

斎藤美奈子

この講座は、作品制作を中心に、現代美術に関する講義をはさみながら進めています。最終的に、それぞれがテーマを見つけ、美術作家として創作していくために必要な力を身につけることを目的としています。

あなたの興味や関心、あるいは、心のなかにある大切な何かを拾い上げて、どんなふうでも構いません、それを目に見える形にしてみる。まず、そこからスタートしましょう。そして、それを、より明確なものにしていく作業を繰り返して行きます。"作品"と呼ばれるものは、そうして出来上がったものることをいうのだと思います。

具体的な表現手法は、インスタレーション、立体、絵画、写真、ビデオなどといった、さまざまなものを試みながら、自分に最適なものを見つけてください。可能性の芽を膨らませ、独自の表現を可能にするため、制作の方向性や進度は個別に対応することを基本とします。みなさんに伴走しながら、その道案内ができれば、と考えています。

一年を通じて前半は、緩やかなカリキュラムに沿ったもの。後半は、各自のテーマで制作ていきます。最後には、展覧会を開催し、その成果を発表します。みんなで展覧会を見に行ったり、また、個展やグループ展の開催、レジデンスへの参加などといった校外での活動も応援します。

興味はあったけれど、作品なんて今まで作ったことがなかったという人から、すでに作品を発表している人まで、美術というものに少しでも興味があれば、どなたでも大歓迎です。

授業内容

■ 作品制作

- 1 : 受講生からヒアリング
……作りたい作品の傾向などを確認していく
- 2 : 講師と受講生で話し合い課題を煮詰める
- 3 : 課題による作品制作
例・風を描く、表現する
 - ・目で見ず触って物を描いてみる
 - ・身近な素材を使った表現
 - ・写真を使った表現
- 4 : 各自の課題で作品制作
- 5 : 修了展開催

■ ミニ講義

- 1 : リカちゃんハウスとドールハウス
……国や地域による空間認識の違い
- 2 : 書道は芸術か?
……アートの定義とは何か
- 3 : 写真
……その出現でアートはどう変わったか
- 4 : 現代美術の流れ
……1950年代以降の変遷と作品紹介

斎藤美奈子

☆もっと詳しく知りたい方は ...

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 ビジュアル レポート (またはインタビュー)

定員：10名

授業日：毎週火曜日 13:00～17:00

教課程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

芸術漂流教室

倉重迅+田中偉一郎+岡田裕子

定員：9名
授業日：毎週月曜日 19:00～22:00
教課程維持費：10,000円（年額）
開催教室：本校

「芸術漂流教室」は、倉重迅、田中偉一郎、岡田裕子を中心に、ゲスト講師も招きながら展開していきます。3種の異なる講座で構成されるこの教室は、一粒で3度おいしく、3倍以上の楽しみ方があるはずです。現代美術の領域で活動しながら他ジャンルにも軸足を持つ、無駄に経験値の高い講師陣とともに「楽しく」「真面目に」漂流しましょう。

ArtLife Hacks (ALH) 講師＝倉重迅

アートを通じて人生のクオリティを高める講座です。アートは決して美大卒やフルタイムアーティストだけのものではありません。考える、議論する、制作する、発表することなどを通して自分自身とアートとの最適な付き合い方や距離感などを見つけ、各々の人生にフィードバックすることができたら、と思います。私自身は映像畠の人間ですが、映像制作やワークショップはもとより、インスタレーションや立体作品などジャンルを問わず扱っていきます。

芸術小ネタ 100 連発小屋 講師＝田中偉一郎

強い作品づくりの発想をひろげるための講座です。発想の定番から、自由度の高い制作法などを、講義や実践、大喜利形式で進め、ときには3時間で制作も行います。多くの作家は、役に立たないプロセスやくだらない考えを、作品からなくそうとします。しかし、良い作品の良い青臭さやおもしろいやりすぎ感、圧倒的な存在感は、意外とそんなところから生まれたりするものです。発想の仕方がわからない人、アイデアはあるけどうまく形にできない人、ものづくりに行き詰まっている人、ただなんとなく刺激が欲しい人が、気楽にでも、熱意を持ってでも参加できる、「でまかせ」を実行する世界で唯一の芸術講座です。

ヒロコセンセイの芸術相談教室 講師＝岡田裕子

授業内での短期ワークショップや、各自の作品制作を通じて、美術作品を作ること、観ることの根本を考える授業です。現代の美術表現の現状も伝えていきます。

受講生ひとりひとりが、これからどう生きてゆこう、これからどう変化しよう、などを抱えています。そういう想いに対して、美学校の少人数制という利点を活かし、それぞれに丁寧に対話してゆきたいと思います。美術やその周辺領域に関しては、岡田裕子自身も表現形態や活動範囲が多岐にわたっておりますので、受講生各々に對して多様な可能性を提案しながら、実践的なアドバイスもできたらと考えています。

倉重迅 アーティスト

1975年神奈川県生まれ。フランス国立高等芸術大学マルセイユ（ボ・ザール）D.N.S.E.P課程修了。シドニービエンナーレ、笑い展（森美術館）、one fine day（サムソン美術館、韓国）など、国内外の展覧会に参加。近年は、CMやPV、TVなど、アートとは異なる環境の中での映像制作にも携わっている。

田中偉一郎 現代美術家

1974年生まれ、うお座、B型、現代美術作家。2011年の個展「平和趣味」など、2000年以降、作品を発表しつづけている。「六本木クロッシング 2007」（森美術館）にてオーディエンス賞を獲得。著書に『スーパーふろくブック』（コクヨ）、『やっつけメーキング』（美術出版社）がある。「フォークデュオ永田」「日にちの歌」「ノーメッセージマン」などの音楽パフォーマンスもしており、その活動は、広く、浅い。

岡田裕子 現代美術家

ビデオアート、写真、絵画、インスタレーション、パフォーマンスなど多岐にわたる表現を用いて、自らの実体験——恋愛、結婚、出産、子育てなど——を通したリアリティのある視点で、現代の社会へのメッセージ性の高い美術作品を制作。国内外の美術館、ギャラリー、オルタナティヴスペース等にて展覧会多数。

未来美術専門学校

遠藤一郎

定員：12名

授業日：毎月不定土曜日と日曜日

※時間換算で2～4回分の授業を土日の二日間で行います。開催週・時間はスケジュール調整を行います。授業は8月も開催予定です。

教程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校+外部

どうしようもなく役立たずだけど、究極に役に立つ、最強のど素人、夢バカ。

やりたいことをやるのは苦しいけど、負けない。

何がアートなのかなんてことを授業でやるつもりはなくて、やりたいことをどういうふうに実現するか、ひも解いていきたい。本当にお前がやりたいことは何なのか。自分の思い描く、こと、もの、夢。世の中や時代にあわせて夢を変えていく。そうではなくて、お前の夢を好きなまんまにやれ、わがままに。それは自分にとっても世の中にとってもたった一つのわがままな夢だから、今はまだ社会にその実現方法はない。だからその方法を具体的に考える。

課外授業が多くなるだろう。ヒントは外に転がっている。ようは何が好きかということ。常識をいきなりぶち壊すことはできないけど、常識にはまっている自分を壊すことはできる。そこから始めたい。何をやっていいかわからないという理由の多くは、生き方の幅がきまっているから。仕組みの中で生きてる。子供の頃から世の中の仕組みをしきりに教えてもらうけど、それは仕組みだからすでに仕組まれていることで。けど実は全部が全員がはじめから仕組まれていることは何一つない、プログラムなどされてない。

大きな課題としては、仕組まれた価値観からの脱却、その先に広がる自由への踏み出し。それはかなり難しい。でも好きなことに命かけていいじゃん。命なんだし、人生なんだし、一つなんだし。あたりまえの自由、それを開放する。

富士登山をしたい。この島のトップを経験。頂上って何？とりあえずこの島のトップとろうぜ。

それぞれの個を最重要視したい。派手で大袈裟なものはみんな知っている。ネットに載っていたり、ランキングの上位だったり。そうではなく些細でも面白いもの、大切なもの。大事な感覚は、些細なそういうことにある。誰も知らないけど物凄い感覚、究極の美なんぞはそこらじゅうで人知れず、さりげなく実は猛アピールしてるので。みんな見逃したりしているだけ。それを掴める感覚を育てたい。それは訓練で身につけられる。誰でも呼び覚ませる。

ど素人がいい。素人って、素人がゆえに学ぶでしょ。できないからできるようにならねば。わからないから学ぶし考える、どんどん伸びる伸びしろがある。無限の発想にて。試行錯誤で出来たものの方が、下手でも意味があるし面白い。素人の発想が今の世の中にはない新しい何かが生まれる可能性がある。

実は素人は最強。そこを夢バカと表現している。夢バカ最強宣言。非実力派宣言。最初の一歩。世の中にはへんなやつが必要だ！！

遠藤一郎

1979年、静岡県生まれ。未来美術家、island JAPAN プロデューサー、多摩川カジュアルデザイナー、DJ。

車体に大きく「未来へ」と描かれた、各地で出会った人々がそのまわりに夢を書いていく『未来へ号』で車上生活をしながら全国各地を走り、「GO FOR FUTURE」のメッセージを発信し続ける。アートイベントで展示やパフォーマンスを行うほか、現在、廻あげプロジェクト「未来龍大空廻」を各地で開催。

2012年から、日本列島にメッセージを描くプロジェクト「RAINBOW JAPAN」を立ち上げ、日本列島を縦断、日本全体を勇気づけるメッセージを描く。主な参加イベントに「別府現代芸術フェスティバル2009 混浴温泉世界」わくわく混浴アパートメント、「TWIST and SHOUT Contemporary Art from Japan」BACC（バンコク）、「愛と平和と未来のために」（水戸芸術館）「六本木アートナイト2012」（六本木ヒルズアリーナ）他。2008年から『美術手帖』（美術出版社）連載。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 未来美術 レポート

現代アートの勝手口

齋藤恵汰+中島晴矢

定員：10名
授業日：毎週金曜日 19:00～22:00
教程維持費：10,000円（年額）
開催教室：本校

今や現代アートは細分化し、あらゆるジャンルを包摂する取り組みの総称となっています。1990年のバブル崩壊から30年間の間に起こった日本の文化的な無根拠を下敷きに、私たちは幅広いプロジェクトを勝手に展開してきました。

過去30年の間には色々なことがありました。95年の阪神淡路大震災、01年のアメリカ同時多発テロ、04年のSNS元年、08年のリーマンショック、11年の東日本大震災、15年の安保法案、そして2020年の新型感染症と2021年の東京オリンピック開催。

「現代アートの勝手口」は、この20世紀を総崩れにした30年の後に、改めて勝手に現代アートをやろうという集まりです。私たちは広く深く種々の形式を取り扱います。知的好奇心の赴くままに一緒に遊べる人と、これからの遊び方を再発明したいのです。

講師の齋藤恵汰と中島晴矢は、齋藤がコンセプチュアルアート（設立・出版・発表）、中島がミクストメディア（映像・写真・パフォーマンス）を本分としています。互いの探究してきた多角的な事柄は、常に根拠なき文化運動の中から興味の赴くものを選び、勝手に関係することを目指してきました。

その多様な勝手こそ、みなさんと共有したいものに他なりません。むろん「勝手口」とは台所の出入り口を指します。この講座を通じ、三河屋のようにひとの勝手口から勝手に入り出し、その勝手を盗み合えるひとたちと出会えれば幸いです。

【カリキュラム（内容と流れ）】

当講座は基本的に「理論と実践」がセットになっています。各テーマごとに講義やテキスト読解を通じて「理論」を学び、ワークショップや作品制作により「実践」を行なってもらいます。

1学期は座学に徹し、芸術活動を展開していく際の基礎体力となる現代アートや各種カルチャーの知識を、テキストの精読を通じて学びます。2学期はアーティストや批評家、キュレーター、コレクティヴ、ダンサーなど、多彩なゲストを招いてより横断的な知見を広げながら作品制作を実行し、クラス全体で議論を交わす中で作品のコンセプトや精度を高めています。3学期は各受講生のパーソナリティに合わせた制作の補助をベースに、年度末に行われる修了展に向けて作品制作と展覧会準備を進めていきます。

これらの成果を受講生が自主的に企画する修了展で発表します。

※8月の夏季休暇にはOBも交えた夏合宿を予定。昨年度は鳥取県のレジデンススペース「コトメヤ」に宿泊し、近辺のアートスポットめぐりやリサーチ、その土地ならではのゲストを迎えての講義などを催しました。

授業内容の一例

- ・山本浩貴『現代美術史』の精読
- ・榎木野衣『日本・現代・美術』の精読
- ・「路上観察」の視点で街を歩く
- ・クリエイティブ・ライティング入門
- ・自身の『根拠地』を示す
- ・「パフォーマンス／ヴィデオ」論
- ・「ケーキ」から考える批評とアート
- ・21世紀初頭の現代アート論考
- ・キュレーション以後のアート
- ・「ユートピア」探求

齋藤恵汰

1987年東京生まれ。法人の設立や命名権を販売し資金調達を行ながら批評的なスマートビジネスを展開するプロジェクト型のアート活動を行っている。

主なプロジェクトにシェアハウスブームを牽引しフジテレビ「テラスハウス」の元ネタとなったランドアートプロジェクト「漁家（2008）」、1990年うまれ前後の批評家を集め手売りで累計4000部を売り上げた批評同人誌「アーギュメンツ #1～#3（2016-2018）」、コロナ禍の東京からアーティストを連れ出し疎開させるアーティストインレジデンス「CORN（2021）」など。現在は複数の法人をやるやる運営しながらアーティストとして日々、仕事をしている。

主な編集、発表、出演に、東京文化発信プロジェクト「東京の条件（2009-2011・編集）」、NHK E テレ「ニッポンのジレンマ（2013・出演）」、アートフェア東京「オーナーチェンジ（2013・出品）」、吉祥寺シアター「非劇（2015・作）」、駒込倉庫「構造と表面（2019・展示）」などがある。

中島晴矢

アーティスト。1989年神奈川県生まれ。法政大学文学部日本文学科卒業、美学校修了。美学校「現代アートの勝手口」講師、HIPHOPユニット「Stag Beat」MC、プロジェクトチーム「野ざらし」メンバー。現代美術、文筆、ラップなど、インディペンドントとして多様な場やヒトと関わりながら領域横断的な活動を展開。主な個展に「東京を鼻から吸って踊れ」（gallery a M／東京、2019-2020）、「バーリ・トウード in ニュータウン」（TAV GALLERY、東京、2019）、グループ展に「芸術競技」（FL田SH、東京、2020）、連載に「オイル・オン・タウンスケープ」（論創社）、「中島晴矢の断酒酒場」（M.E.A.R.L.）など。HP：<https://haruyanakajima.com/>

過去のゲスト講師

喫茶野ざらし（プロジェクトチーム）、アグネス吉井（ダンスユニット）、遠藤麻衣（アーティスト）、鈴木操（彫刻家）、筒井宏樹（近現代美術史）、佐々木友輔（映像作家）、赤井あづみ（鳥取県立博物館主任学芸員）、大和田俊（サウンドアーティスト）、赤井浩太（批評家）、山内祥太（アーティスト）
※今年度も多彩なゲスト講師をお招きする予定です。

モード研究室

《ファッションの現場から》

濱田謙一

定員：6名
授業日：毎週土曜日 18:30～21:30
教程維持費：15,000円（年額）
開催教室：本校

何かを想像し考え、自分の中に入り込み転がり込んで出てゆく瞬間の表現手段が服だったら、どのような作品が生まれるのかをテーマに本講座は進められます。

服なんてしょせん寒さをしのぐための道具にすぎないのに、なぜ私たちは服を選ばなければならないのか？よくよく考えると単純な思想にぶつかります。

今のこの時代にこの服装なら問題ないとか・美しく見せたいとか・自分の性格に合ってるなど、いろいろな考え方で服を選びます。しかし実際には自分の意志で選んだつもりでも、モードの権力によって左右されていることが多いはずです。

本講座はモードを考えるところからスタートし服を作り上げるまでの授業です。経験の有無は問いません。

デザイン～素材～パターン（型紙）～縫製と服作りを中心とした実技と実際プロの現場ではどのような作業がおこなわれているのか、第一線で活躍している技術者、デザイナー等を招き講義をしていただきます。

そのなかで自分自身が表現するための服とはなにか？を一年間通して考え、物作り進めていきます。

濱田謙一

授業内容

- 5月 オリエンテーション 表現1
- 6月 服の構造 表現2
- 7月 服の構造 表現3
- 9月 パターン実習 縫製、トワル作成
- 10月 パターン実習 縫製、トワル作成
- 11月 デザイン1 素材イメージ
- 12月 デザイン2 素材イメージ
- 1月 自由制作
- 2月 自由制作
- 3月 自由制作 縫製工場見学
- 4月 作品発表

濱田謙一

1967年東京都生まれ。1988年東京デザイナー学院卒業。PASHU、丸紅、COMME des GARÇONSを経て現在フリー。映画、舞台、CM、衣装デザイン制作多数。東京を中心に、パリ、横浜等にて個展、グループ展。2010年ロシアモード誌にファッション論を連載、美学校も紹介される。

〈特別講師〉

○パターン

荒熊 淳（元コムデギャルソン）

○縫製

小林秀明（アウラヒステリカ代表）

その他

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート、講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 モード レポート（またはインタビュー）

実作講座 「演劇 似て非なるもの」 生西康典

定員：10名
授業日：毎週火曜日 19:00～22:00
(6月から開講)
教科維持費：40,000円（年額）
※ 教科維持費は制作実費を含みます。
開催教室：本校＋スタジオ

みなさんは「演劇」というと、どういったものを思い浮かべるでしょうか？

現在、あらゆるジャンルで自家中毒のような事態が起こっているように思います。その「ジャンル」を好きな人が、自分が知っているところの、もしくは自分が見たものを再生産、焼き直しをしているように見えます。

「演劇」が好きな人による「演劇」、「音楽」が好きな人による「音楽」、「映画」が好きな人による「映画」、「小説」が好きな人による「小説」、「漫画」が好きな人による「漫画」、「美術」が好きな人による「美術」、等々。そのジャンルを好きな人が作るのは当たり前じゃないかと思うかもしれません。でも、その結果生まれているものは、過去の作品を参照したようなものばかりです。ようするに何々みたいな作品や、何々や何々が混じったような何か。何処かで見たようなものだと言うことです。

もちろん過去の作品を参考したり、参考にすることが一概に悪いわけではありません。例えば、「現代美術の世界」ではむしろ、作家は過去の作品を知って、自分の「現代美術の世界」における寄って立つ位置を説明出来ないといけない、と言われます。コンテキストがどうしたこうしたってやつです。寄れば大樹の影です。それを100%否定したいわけじゃありません。

でも、本当にそれで全てなのでしょうか？

しかも、多くの場合、「世界」と言わされているものは「欧米」とほとんど同意語です。「欧米」の価値観が「世界」のスタンダード。

さらに、恐ろしいのは、過去の何かに似ても似つかないものは認められないということ。

こんな「演劇」（「音楽」「映画」「小説」「漫画」「美術」）じゃない！とか言われて。自分の知っている「演劇」（以下、省略します）らしい作品を作ること、何とかっぽいものをと思い込んでしまっていることは、予め自分の作る作品の大きさ、境界を自分の手で狭めていることなんじゃないでしょうか？

「演劇」（以下、省略）っていうのは、もっと可能性のあるものなんじゃないかと思っています。もちろん思っているだけで実証出来るわけではありません。

（実証って何だ？それより自分の実感しかないかもしれません。）

それを確かめるためには、自分達で作ってみるしかありません。

こんな「演劇」（「音楽」「映画」「小説」「漫画」「美術」）じゃない！と言われながら。もしくは無視され続けながら。

「演劇」を作つてみると演技だけじゃありません。

言葉もあれば、音も、美術も、あとあらゆるいろんなものが含まれています。

いや、もしかしたら言葉も音も美術も要らないかもしれない。

役者だって居なくても良いかもしれません。

無人の演劇だって、僕はあり得ると思っています。

まだ観ぬ演劇に興味ある方はぜひ、ご参加ください。

ちなみにいわゆる演劇の学校で行なわれるであろう基礎訓練みたいなものは一切行なわれないと私は思います。それだって決めてはいませんが。

全ては集まった人達と出会うことから始めます。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 演劇 レポート

2022年度の開催形式について

今期は本校で座学を、スタジオで演習を交互に行い、最後に修了作品を制作します。これまで前半はどういうものを作りたいのか探っていくためにも受講者とひたすら話すということをして、後半にしたがって具体的に作品化していくための作業を行つて来ましたが、実際に演じてみてることで見えてくることも多いので、スタジオでの演習も並行して行うことにします。

（生西康典）

生西康典

1968年生まれ。舞台やインスタレーション、映像作品の演出などを手がける。作品がどのようなカタチのものであつても基本にあるのは人とどのように協働していくか。

近作は、その日集まつた人たちと、その場でつくり、その日の夜に公演したワークショップ形式の『日々の公演』（2019、BLOCK HOUSE）など。

インスタレーション作品：『風には過去も未来もない』『夢よりも少し長い夢』（2015、東京都現代美術館『山口小夜子 未来を着る人』展）、『おかえりなさい、うた Dusty Voices, Sound of Stars』（2010、東京都写真美術館『第2回恵比寿映像祭 歌をさがして』）など。空間演出：佐藤直樹個展『秘境の東京、そこで生えている』（2017、アーツ千代田3331 メインギャラリー）。書籍：『芸術の授業 BEHIND CREATIVITY』（中村寛編、共著、弘文堂）。

特殊漫画家 - 前衛の道 ～商業漫画と特殊漫画 - そのあいだ～ 根本敬

定員：10名
授業日：隔週月曜日または隔週火曜日
19:00～22:00
教科維持費：10,000円（年額）
開催教室：本校

私は 81 年以来非商業的なへたウマブームの追い風もあり、当時としては前衛的な「特殊漫画家」として（この呼称は自称です）世に出て幸いにも下積み期間もなくこれを職業として成り立たせ、やがて複数の扶養家族を含め今日まで飢えることもバイト生活をすることもなくこの道一筋で生きて参りました。これは奇跡的なことながら、我が身を振り返ると、ごく自然な流れに乗り続けることが出来た結果とも言えます。とはいっても、私なりに趣味を職業とし生きながらえるにあたり、私なりの無意識の計算、体よくいえば「セルフプロデュース」能力はあったかと振り返ります。それが意識の深層に秘訣としてあるのは確かな様です。

その深層を無意識の濁から掬い、明るみにし、手に取り今日まで「何故食べてこられたか」その意識無意識のあいだを受講生の皆さんに語り、時に問いかけ、そしてこの講座は実際どうなるかはさておき、あくまでも漫画講座なので、しばしば即興的に皆さんとラフに漫画を描きながら探っても行きたいと思います。

高収入を得るには特殊漫画家は商業漫画家（漫画そのもので成功する。因みに特殊漫画には漫画そのものに商業的な成功はありません）と比べると非常に不利です。

しかし、目先、矛先をかえれば特殊漫画家は商業漫画家よりも生きながらえるに有利な職業であります。
とまれ。

これは、言うなれば「漫画講座」の体裁をとりながら、本来の属する表現ジャンルとは違う表現スタイルを特殊漫画の作法？から学びとり、それを自らの本来の表現に生かす。そこから「本業」としてバイトせずに食べてていく秘訣を受講生の皆さんと探る講座にしていく所存です。

一般的ではない他人（ヒト）と「どうも周りに違和感を覚える」というようなあらゆる非漫画の異なる表現ジャンルの方の受講もおおいに歓迎いたします。また、しっかりと美術教育を受け絵が上手くなりすぎ、下手くなる必要のある方にもお薦めの講座です。

※当講座では性的描写を含むコンテンツの視聴や閲覧があります。予めご了承ください。

授業内容

- ・特殊漫画家とは？ - 現在の商業漫画と特殊漫画のあいだ
- ・しのぎこそ特殊漫画の醍醐味であり、可能性を拓く
- ・無意識を鍛えろ
- ・へたウマほど難しい『絵』はない
- ・漫画表現の越境
- ・事実より真理。そして真理はしばしば下らない事実の中に在る
- ・括りを与えたそばからこぼれ落ちるもの
- ・意味はないけど理由はある
- ・無秩序 - 混沌の翻訳。時に元ネタとしてのカオス
- ・絶対に成功出来ない者たちの棒振人生の数々等々

根本敬

1958 年東京生まれ。81 年月刊漫画『ガロ』9月号で漫画家デビュー。以後「平凡パンチ」に「生きる」などを連載。漫画の代表作は「怪人無礼講ララバイ」収録の「タケオの世界」とされる。「因果鉄道の旅」「人生解毒波止場」「ディープコリア（同盟との共著）」など文字の本は漫画本より読者が多い。2009 年「真理先生」で第 11 回みうらじゅん賞受賞。幻の名盤解放同盟（昭和歌謡の濁を掬うコンピ「解放歌集」を編纂）の一員であり、東京キララ社の特殊顧問であり、マルセイユを拠点とするアート運動体 ル デルニエ クリの一員である。

劇のやめ方

篠田千明

定員：10名
授業日：隔週火曜日 18:30～22:00
教程維持費：30,000円（年額）
※教程維持費は制作実費を含みます。
開催教室：本校＋スタジオ

劇は始めるよりやめるほうが難しい。人前にでたくないというひとは、人前でなにかをやるのが嫌なのではなく、人前でなにかをやめるのが嫌なのでは、とすら思う。社会で起きている劇をやめるのはさらにとても難しい。と言うより、劇を認知することと社会を認知することはほとんど等しい。

つまり、ある劇を共有できることで生まれる社会の中に私たちは生きている。その社会全体を否定するわけではなくて、やめるべき劇があるのではないか。難しいけど、劇のやめ方を考えることはいま必要とされているように思う。

『劇をやめる』そのテキスト自体が、即興的に無数の劇を生み出す。

私は、作家としては、常に即興性を生み出す劇が生き延びるべきだと考える。即興性はより多くの声を吸い込み、より多くの身体を同時に成立させるからだ。ありとあらゆるありえない組み合わせを可能にする、『劇をやめる』という演劇を作る。

この講座では、一年を通じて二回の公演を予定しています。個々人での発表か、全員での発表になるか、それは講座の進行で変わってきます。オンラインでの実験も含んでいます。

演劇には興味があるけど集団はつらい、とか、近くで見るのこわい、とか、そういう人も歓迎です。対象となる年齢やパフォーマンス経験は問いません。誰かの誕生日を祝った経験や、来週の予定を立てる経験があるなら、それは劇を立ち上げた経験がある、ということです。

個人の生活に密着した劇は力強さがあります。

どれだけ多くのタイムラインや場所を吸収できるか、その力強さをぜひ、この講座で私と共有させてください。

篠田千明

2004年に多摩美術大学の同級生と快快を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。

以後、バンコクを拠点としソロ活動を続ける。「四つの機劇」「非劇」と、劇の成り立ちそのものを問う作品や、チリの作家の戯曲を元にした人間を見る動物園「ZOO」、その場に来た人が歩くことで革命をシミュレーションする「道をわたる」などを製作している。

2018年 Bangkok Biennial で「超常現象館」を主催。2019年台北で ADAM artist lab、マニラ WSK フェスティバル Music Hacker's lab 参加。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 劇のやめ方 インタビュー

意志を強くする時 ～漫画の作話精神論～ 意志強ナツ子

定員：8名
授業日：毎月第三日曜日（年間12回）
13:00～17:00
教課程維持費：10,000円（年額）
開催教室：本校

漫画づくりにおいて、私は作話の工程をもっとも重視しています。売れている教則本を読めば「面白い」物語の作り方は大体わかるようになると思います。じゃあ「白目をむくほど面白い」物語はどうやつたら作れるのか？私は、その答えを人生を通してず～っと探し続けていくつもりですがおそらくそれは、精神論がないと辿り着けない場所にあるんじゃないかなと思っています。

というわけで、この講座は、作話理論と同じくらい精神論を大切にしていく漫画の作話講座です。

私が描いた『アマゾネス・キス』という作品の中で主人公の占い師・岡本はづきは、占いをする時の感覚をこんなふうに表現します。
「目や脳で考えない。ここで考える。（頭上を指差す）」
または、もっと的確な表現もあるかもしれません。
「イデアの雲に手をつっこむ」
「潜在意識の沼の底に触れる」
とか。私の作話精神論は、なんとなくそういうイメージです。

簡単に到達できる境地ではありません。しかしトレーニングを重ねることでその境地への回路を作っていくと思います。到達の精度をより高め、早め、生産性を上げていく。そういうトレーニングをしていきたいです。

漫画を描いたことがない人でも、絵が苦手な人でも大丈夫です。だけど、小説やドラマの脚本づくりに活かせるか？というと、わかりません。あくまで漫画づくりのための作話講座です。

授業内容

この講座には『30分作話』と『1年作話』という2種類のトレーニングがあります。

『30分作話』

30分でショートストーリーのプロットを捻り出すトレーニングです。講座時間内にみんなで行います。2セット行う場合もあります。素早く深く集中して話を作るトレーニングなので、頭が疲れる作業ですが、この課題で瞬発力を鍛えていきましょう。

『1年作話』

1年間じっくり時間をかけてひとつの物語を作っていくトレーニングです。毎月宿題として制作してもらいます。メールでプロットを提出していただき、講座内で講評します。それぞれの都合に合わせて、無理のないページ数で作っていきます。この課題で、持久力を鍛えていきましょう。プロットがまとったら、ネームにしていきます。

12月は、ゲストに漫画編集者をお招きし、ネーム講評と講義をしてもらう予定です。

最終回の4月には、美学校にて修了展代わりの即売会を行います。『1年作話』の完成形ネームを、合同誌としてまとめ発行するのがこの講座の目標です。

私もみなさんと一緒に『30分作話』と『1年作話』に取り組んでいきます。どういうプロセスを経て完成に至るかをお見せすることで、みなさんのユリイカのお手伝いができると思います。作話は頭が疲れるし、なかなかOKも出ないし、スランプもある。光が見えないしんどい作業だと思いますが、

じゃあいつやるの？
今でしょ 今がその時でしょ
意志を強くする時でしょ～！

という気持ちで、一緒に頑張っていきましょう。

意志強ナツ子

1985年山形生まれ。日本大学芸術学部美術学科彫刻コース中退後、Academy of Fine Arts, Prague コンセプチュアルメディア学科（Prof.Milos Sejn）入学。同アカデミー、インターメディア学科（Prof.Tomas Vanek）修士課程卒業。2010年第9回漫画アクション選外奨励賞受賞。2014年リイド社トーチwebにて『女神』が掲載され商業デビュー。代表作に『魔術師A』『アマゾネス・キス』『黒真珠そだち』『るなしい』など。

予定ゲスト講師

中川敦

1979年北海道生まれ。東京学芸大学教育学部卒業後、立風書房入社（のちに学研と経営統合）。雑誌編集者として勤務したのち、2011年10月にリイド社入社。2014年に会社の有志とともに「トーチweb」創刊。現編集長。担当作家に、赤瀬由里子、意志強ナツ子、ウルバノヴィチ香苗、大山海、川勝徳重、斎藤潤一郎、高浜寛、ドリヤス工場、中川学、バロン吉元、不吉靈二、堀北力モメ、まどめクレテック、道草晴子、みなもと太郎、山田參助など。

建築大爆発

岡啓輔+秋山佑太

定員：10名
授業日：隔週金曜日 19:00～22:00
(日曜に外部実習行う場合があります)
教程維持費：10,000円（年額）
開催教室：本校+外部

建築家でありながら現場で大工として多くの経験をしてきた岡啓輔と秋山佑太によるハードコアな建築とアートの講座です。本講座はアートと建築の交差点となるでしょう。建築家志望の人も、職人志望の人も、アーティスト志望の人も、今は建築にもアートにも関わりがない人も、この交差点に関心があれば来てください。

文・岡啓輔

アートってのは、すごく遠くにあって崇高で人類の宝みたいなもので簡単には近づけない、ヘッポコなオレなんかじゃ到底無理、、と、基本ビリリまくっているんです。
だけど、人がつくるものの面白さの沢山がそこにあって、知りたい！わかりたい！
願わくばその秘技を手に入れて自分でもアートを作りたい！などと、脳味噌の片方では鼻息荒く思つてしまつてもいます。

少しだけわかった事は、そもそも小手先でひねり出せるような、ハウツー教えてもらえるような簡単なものじゃないって事。深淵な「魂」の問題なのだ！と思つたり、もっとピヨロピヨロ～と軽～く現れてきよつたり、神出鬼没なものですね、アート。

僕は、その「アート」という領域に「建築」をベースにして近づこうと試みている者です。

2005年の暮、穴を掘りはじめ、16年経った今も完成に向かって毎日建築を作っています。建築の名は「蟻鰐鳶ル（アリマストンビル）」。平均寿命35年と言われる短命過ぎる日本の鉄筋コンクリート建築に物申したく作り出したコンクリートは200年は保つ！と太鼓判を押されている。200年！！ビビるなあ、ただ頑丈に作るだけではダメで、200年後の人達にも大切にしてもらえるような建築にしなきゃいけない。200年後ってどんなんだ？想像も出来ないほどの遠い未来でも価値があるモノ、そう考え出したら、もう、アートを考え出さざるを得なくなつたのです。

あと、この2021年、事情があり家を出、ホームレスとなりボロボロになっていました。起きている事態が理解出来ず、人との別れが辛く、悲嘆に暮れていきました。この絶望的な状況から救ってくれたのも「蟻鰐鳶ル」でした。僕がどんなにショゲていようと蟻鰐鳶ルはビカッ！と輝いていた。笑っちゃうほどキラキラしてた！明るい希望そのものじゃないか！！スゲーうれしかった！

蟻鰐鳶ル、今から数年間、全集中で作り上げ鰐！僕は、浮かれてたりグチャグチャだったりすると思うけど「建築大爆発」では、いつでも今考えてる事を正直に話していきたいと思って鰐。

文・秋山佑太

キタナイモノとして扱われてきた場所（又は廃棄された空間）で我々は創造します。キタナイモノが社会のヒエラルキーの底辺にあるという意識を疑い、今こそ自由に物を作るべきです。捨てられた椅子の修理からはじめても良いでしょう。セルフビルドの計画を立てるのも良いでしょう。

現代建築の多くが用途を限定され、ほぼ風化せずに使われ続けています。そんな状況を「建築脳死状態」と私は勝手に呼んでいます。現代の建物は殆ど、建設完了と共に脳死状態です。

都市計画家のケヴィン・リンチは、「廃棄された場所は絶望の場所であるが、多くの魅力がある場所もある。また、様々な管理から解放され、自由な行動と空想を求める豊かさがある。」と述べています。加えて「新しい物・新しい宗教・産まれたての弱いものを保護する場所もある。それは夢を実現させる反社会的行為の場所で、探検と成長の場所である。」と、かなり大胆な視点を提示しました。キタナイモノとして扱われてきた場所（又は廃棄された空間）こそ創造的な空間です。そんな場所を、ひとりひとりが探し、何かを作る準備しています。建築大爆発は、語りの場です。我々は語り、手を動かして、自由に物を作っています。

岡啓輔（建築家）

1965年九州柳川生まれ、一級建築士、高山建築学校管理、蟻鰐鳶ル建設中。ウイークポイントは、心臓、色覚、読書。1995年から2003年まで「岡画郎」を運営。2005年、蟻鰐鳶ル（アリマストンビル）着工。2018年、筑摩書房から「バベル！自力でビルを建てる男」を出版。2019年「のせでんアートライン2019」に参加。

秋山佑太（美術家・建築家）

1981年東京都生まれ。美術家・建築家。作業員や建造物を扱い、移動や集積といった方法で地靈を呼び起こす作品を制作。近年の主な企画展示に、2021年「スーパーピジョン」(WHITEHOUSE・デカameron・東京)、「破線と輪郭」展(ART DRUG CENTER・宮城)、2020年「芸術競技」展(FL田SH・東京)、2018年「モ デルルーム」展(SNOW Contemporary・東京)「新しい民話のためのプリビジュアライゼーション」(石巻のキワマリ荘ほか・宮城)、2017年「超循環」展(EUKARYOTE・東京)「グラウンドアンダー」展(SEZON ART GALLERY・東京)、2016年「バラックアウト」展(旧松田邸・東京)など。

テクニック&ピクニック ～視覚表現における 創作と着想のトレーニング～

伊藤桂司

本講座では、グラフィック、デザイン、イラストレーション、美術などの創作における技術の獲得（テクニック）と楽しさの探求（ピクニック）を目的としています。

この講座では、緊張やストレスから遠く離れ、“創る喜び” “壊す快感” “身体感覚” “『偶然』の重要性”と言ったキーワードを中心軸に据え、シンプルながら多様なアプローチを試みます。

人間はリラックスした状態が一番能力を発揮できるとシュタイナーも言っていますが、受講生の方には、この講座を通して自らの内に潜む才能の“原石”を発見してもらえばと思っています。

授業内容の一例

- ・テンプレートと定規のみを使って描く風景・人物
 - ・コラージュ
 - ・パースペクティブによる空間認識
 - ・模写
 - ・ZINE の制作
 - ・インプロヴィゼーション（2～3人のチームで即興的に大きめの支持体に絵を描く）
 - ・画材の実験（同じモチーフを異なる画材で描き、画材の特性を再認識・再発見）
 - ・ブラインドドローイング（目を隠して音楽を聴きながら、音から連想されるイメージを描く）
 - ・3ミニツドローイング（その場で聞いた言語のイメージを3分間で描く）
 - ・古本、中古レコードのカスタマイズ（神保町で入手した古本、中古レコードにコラージュしたり、落書きしたり、ペイントを施したり、自由な発想でカスタマイズし、世界に一つだけのアートピースを創る）
 - ・インプットとアウトプット（影響を受けた作家を再研究し、その方法論を援用した作品制作を試みる）
- など他多々

定員：10名

授業日：毎週月曜日 19:00～22:00

教程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

伊藤桂司

1958年東京生まれ。'80年に雑誌 "JAM" "HEAVEN" でのデビュー以来、グラフィックワーク、アートディレクションを中心に活動。2001年東京ADC賞受賞。ティ・トウワ、スチャダラパー、キリンジ、バッファロー・ドーター、高野寛、ohana、オレンジペコー、愛知万博EXPO2005世界公式ポスター、イギリスのクラヴェンデール、SoftBankキャンペーン他多数のヴィジュアルを手掛ける。

「四次元を探しに / ダリから現代へ」(諸橋近代美術館)など他数々の国内外展示に参加。個展多数。作品集に『LA SUPER GRANDE』(ERECT LAB.)、『DAYS OF PAST FUTURE』(Alex Besikianとの共著)他多数。京都芸術大学大学院教授。UFG代表。<http://site-ufg.com/>

「おもちゃ」と「テストプレイ」のアートへ ～ポストコンテンポラリーアート実践編～ 岸井大輔

「つくってる。確信はある。そんなときに限ってどう見ていいかわからないといわれる。」「ステートメントをわかりやすくとか、そもそも講評とかピンとこない。」「自分の制作には、発表の場がない。作風を変えるのは意味不明だけど」

ならばポストコンテンポラリーアーティストではないでしょうか。ポストコンテンポラリーアートでは作品をおもちゃと考えます。絵画もおもちゃ。だから展示はテストプレイ。詩も遊具、Tシャツに刷るのはテストプレイ。

いつもの作品を「遊戯具」発表を「テストプレイ」としてやってみましょう。そしてキュレーションも演出も業界もないアートの在り方を実現します。

年間にそれぞれの制作とテストプレイを2回ずつ。

あらゆるつくりたい人のために。

*ポストコンテンポラリーアートは岸井大輔が提唱するアートセオリーです。詳しくは2022年春発売予定の「ポストコンテンポラリーアート」を参照ください。

授業内容

第1回・2回（6月7日、14日）

講義 ポストコンテンポラリーアートとは何か

第3回・4回（6月28日、7月5日）

受講者の作品プレゼン

第5回・6回（7月19日、26日）

受講者作品の非公開テストプレイ

9月 第1回 公開テストプレイ会（予定）

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 岸井大輔 インタビュー

定員：10名

授業日：火曜日 19:30～22:30

(6月～2月／毎月2,3回／年間20回)

教課程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

岸井大輔

1970年生。劇作家。他ジャンルで遂行された形式化が演劇でも可能かを問う作品群を発表している。代表作「potalive」「東京の条件」「好きにやることの喜劇（コメディー）」「始末をかく」2019年に自身のカンパニー「PLAYS and WORKS」旗揚、ポストコンテンポラリーアートについて考えている。

<https://www.kishiidaisuke.com/>

アートに何ができるのか ～次に来る「新しい経済圏」と アーティストの役割を考える

荒谷大輔

アートとは何でしょう。ハイカルチャーと呼ばれたものは「天才」という概念を弄んだ19世紀以降の短い歴史の果てに、今や絶滅危惧種として残っているにすぎません。その代替となったサブカルチャーも、資本主義社会の枠組みを前提にした価値の共有手段になっています。資本主義の狂騒の中で「神」として祀り上げられる芸術家のあり方も、しかし、資本主義の枠組み自体が軋む中で、すり減らされながら余命を数えている段階にあるように思われます。

この講座では、まず現在アートがおかれている社会的な状況を振り返って考えながら「アート」と呼ばれるものの本質を明らかにします。参加者が知らないうちに身に着けている価値観の前提を問い合わせつつ、それでも直観的にはおそらく各人が捉えているアートの本質を、ディスカッションの中で明らかにしていければと思います。

その上で「アートができること」を、私たちが日常を営む生活経済圏をまるごと問い合わせで、実践的に探求していきます。それが、この講座の最終的な目標です。「実践的」というのが非常に重要なところで、参加者（とその周辺の人々）によって実際に、新しい経済圏を作ることが目指されます。美学校という場所はそもそも、そのために作られたのではないかと僕は思っているのですが、校長には確認してません。

これまで積み重ねられてきた数々の試みの上にすでに成立している場のちからを借りながら、今までにこの時代に実践的学者としてできることを探つていきたいと思います。

みなさまのご参加をお待ちしています。

授業内容

講義とディスカッションを繰り返す中で、講師を含めた参加者が無意識のうちに前提にしている価値観を浮き上がらせていく、それが凝り固まっている場合にはほぐしていきます。否定はしません。マッサージします。深呼吸する余裕があれば、コリは自然にほぐれていくかと思います。身体性大事。もしかしたら参加者の希望に応じて、実際に身体を動かすワークをするかもしれません。

そんな中で、現代の人々の考え方を無意識のうちに規定している歴史的な構造を明らかにし、現状の資本主義社会を越える新しい経済圏の可能性を提案します。講師が近年取り組んでいるブロックチェーン技術を用いた透明性の高い信頼経済圏の提案です。これだけだと何が何やら分からないとは思います。講義の中で小出しにしていければと思います。これはあくまで提案で、参加者の方々の身体を拘束するものにならないよう十分に気をつけるつもりです。が、少なくとも現行社会の「当たり前」を本質的なところから見直すきっかけにはなるかと思っています。

そうして最終的には、何らかのかたちで「実践」ができればと思います。成り行き次第のところもありますが、その「実践」はアート作品を作ることかもしれませんし、演劇やダンスを上演することになるかもしれません。あるいは、何らかの信頼経済圏を作ることになるかもしれません。

定員：8名

授業日：隔週火曜日 18:30～21:00

教課程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

荒谷大輔

江戸川大学基礎・教養教育センター教授。専門は哲学／倫理学。主な著書に『資本主義に出口はあるか』（講談社現代新書）、『ラカンの哲学：哲学の実践としての精神分析』（講談社メチエ）、『経済の哲学：ナルシシズムの危機を越えて』（セリカ書房）、『西田幾多郎：歴史の論理学』（講談社）、『ドゥルーズ／ガタリの現在』（共著、平凡社）など。演劇の脚本を書いたり、ダンス作品のドラマトウルクを担当したり、自分で暗黒舞踏を踊ったりしています（<https://bigakko.jp/event/2021/engeki-shuryokoen>）。

[募集なし] (次回募集は未定)

イベント・プロデュース講座 ～オルタナティブな場を作る

岸野雄一

この講座では、コンサート、DJ イベント、サウンド・インスタレーション、トーク・ショウなど様々なイベントを企画・宣伝・制作・開催することを実践的にオーガナイズしながら、体験としてその方法論や技術を学んでいきます。オーガナイズとは組織化する、編成するという意味ですが、一般に音楽用語では「仕切る」を意味し、コンサートを企画、宣伝、運営、実施することを、オーガナイズする、それを行う人をオーガナイザーといいます。受講生の手によって企画を立案し、すり合わせをしながら、本校や外部のスペースを使って、実際のイベント運営を体験していきます。昨今、お金を払えばライブハウスを借りて、ヴァリューセットのようなイベントを簡単に行なうことは出来ます。しかし、今日のアーティストは自分自身の力で表現の場を開拓していく必要があります。ステージに立つだけではなく、音楽に関わっていく方法は数多くあります。また、必ずしも裏方に徹するだけではなく、表現の現場がどのように作られていくのかを学んでいくことは、現代の表現の問題点を探るうえで重要です。講義は大きく 3 つの構成

に分かれて進行します。

1 : ゲスト講師を招いて体系化された方法論や実践的な技術を学ぶ

2 : 受講者全員でプロジェクトを企画し、すり合わせをしていく
会議形式の講義

3 : 実際にイベントを開催し、実践する体験型講義

これらを小規模なものから 1 年間かけて、最終的には地方や海外からアーティストを招聘する、または地方でのイベントを開催する等、段々と規模を大きくしていきます。

定員：12 名

授業日：隔週木曜日 19:00 ~ 21:30

教課程維持費：10,000 円（年額）

開催教室：本校

岸野雄一

音楽家、オーガナイザー、著述家など、多岐に渡る活動を包括する名称としてスタディスト（勉強家）を名乗り活動中。レーベルオーナーとしては "Out One Disc" を主宰し、OORUTAICHI や Gangpol & Mit など個性豊かなアーティストをプロデュース。オーガナイザーとしては Max Tundra 日本ツアーのアテンドをつとめるなど、常に革新的な『場』を模索している。

そしてアーティストとしては、人形劇 + 演劇 + アニメーション + 演奏という総合的な表現に挑戦した音楽劇『正しい数の考え方』が第 19 回メディア芸術祭エンターテインメント部門で大賞を受賞した。

裏方からフロントマンまで、あらゆるフィールドを表現の舞台として活躍中。

ゲスト講師

近藤祥昭（吉祥寺 GOK SOUND）

浜田淳（Raw Life 主催／音盤時代）

宋 基文（舞台監督）

授業内容

- | | |
|------------------------|-------------|
| ・企画書、出演者・会場との交渉 | ・企画会議 |
| ・予算書、タイムテーブル、テクニカルライダー | ・ステージ制作 |
| ・スタッフ編成、海外との交渉 | ・キュレーション |
| ・アートマネジメント | ・広報・情宣 |
| ・PA・仕込み | ・宣伝デザイン |
| ・PA・オペレート・モニターの実際 | ・舞台美術 |
| ・照明・映像 | ・ツアー・オーガナイズ |

[募集未定] (募集を行う場合は WEB サイトにて告知します)

デザインソングブックス

大原大次郎+宮添浩司+本多伸二

そもそも、デザインってなんだろう？

その答えは、永久に揺るがないような強固なものではなく、毎日意味やレートが変わらるような、生モノだと考えてみよう。デザインの意味やレートをゼロから設計してもいいし、いたずらしてもいい。創造や破壊なんていう大ごとの前に、あせらずゆっくり、ほんの少しだけ疑うだけでもいい。

デザインを食べてみる？ 着てみる？ 住んでみる？ 歌ってみる？ 泳いでみる？ 笑ってみる？ 無視する？ …どうする？

この講座『デザインソングブックス』は、デザインの実践と、それを少し疑ってみることに必要な、あなただけの〈道具〉〈方法〉〈環境〉を探るところから始まります。

まずは、描写（ドローイングやレタリング）、配置（紙上や空間上でのレイアウト）、採集（フィールドワークやインタビュー）などのワークショップを通して、書くこと（設計と記述）と話すこと（発声とパフォーマンス）の基礎代謝を上げていく。

全身を動かし、思考し、話し合いを重ねながら、独自の〈道具〉の発見、〈方法〉の開拓、新たな〈環境〉づくり（あるいは破壊）を探っていくと、自分だけの手癖や、モノを見る癖、コトを考える癖が顕在化してきます。

〈道具〉〈方法〉〈環境〉を探り当て、手癖、見る癖、考える癖と向き合えたら、いよいよ実践編です。

「デザインってなんだろう？」という問い合わせのもと、スタディから導きだされたものを編集しながら、グラフィック、テキスト、映像、写真、プロダクト、web、展覧会など、ひとりひとりが対話の場としてのメディアを選択し、設計と記述、発声とパフォーマンスの実践を行います。

ここでのデザイン成果は、教室内にとどめずに、できるだけ多くのフィードバックが得られるよう、実社会へアウトプットしていきます。

その過程や成果の内容に合わせてのアドバイス、ディスカッション、ゲスト講師を招いての勉強会や講評会なども行います。

会社や事務所に入り、技術を習得しながら依頼主とのやり取りの中で、実践的に社会にコミットしていくデザイナーの形、キャリア当初から独立し、生活や仕事の方法や関係を模索していくデザイナーの形、まったく異なる職種から転職したり、領域の異なる職能を横断することで、新たな地平を切り開く形など、デザイナーの過程や実践はさまざまです。

でも、会社や事務所に入っていようがいまいが、学生だろうが巨匠だろうが、共通して「デザインってなんだろう？」という問いは、姿を変えながらいつも目の前に立ちはだかります。その問いは、「自分でなんだろう？」という問いと重なるほどに大きいものであり、生モノです。

『デザインソングブックス』は、その生モノに取り組みながら、独自の〈道具〉〈方法〉〈環境〉を探り、書くこと（記述と設計）と話すこと（発声とパフォーマンス）、デザインをするための過程から実践までを共有する場です。

年齢、経験不問です。ぜひご参加ください。

定員：-
授業日：-
教程維持費：-
開催教室：-

大原大次郎

1978 年神奈川県生まれ、武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業。タイポグラフィを基軸とし、音楽、書籍、空間、映像などにおけるデザインに従事するほか、展覧会やワークショップを通して、言葉と文字の新たな知覚を探るプロジェクトを展開する。近年のプロジェクトに、重力を主題としたモビールのタイポグラフィ〈もじゅうりょく〉、ホンマタカシによる山岳写真と登山図を再構築した連作〈稜線〉、音楽家の蓮沼執太とイルリメと共に構成する音声記述パフォーマンス〈TypogRAPy〉などがある。受賞に JAGDA 新人賞、東京 TDC 賞。
<http://oharadaijiro.com>

宮添浩司

1979 年生まれ。武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業後、BANG! Design,inc を経てフリーランスに。エディトリアルを主軸に、紙媒体や、商業施設のサイン計画など、グラフィックデザイン全般に携わる。建築家滝口聰司と共にブックレベル「aptp books」を主宰。
<http://kojimiyazoe.com>
<https://aptp.jp/publishing/>

本多伸二

1981 年生まれ。武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業。デザイン事務所勤務を経て、2009 年からフリーランスに。カタログ、ポスター、フライヤー、ミュージックビデオのタイトルや番組のデザインなどを手掛ける。本業の傍ら、サンプリングカルチャーへの偏愛を表したシリクスクリーンによるプロダクトを模索し展開中。

<http://hondamr.net>

[募集なし] (次回募集は 2023 年度)

楽理基礎科

～ゼロからはじめる音楽理論

菊地成孔

魅力的な楽曲の構造を支える『コード進行』の理論をゼロから学んで行きます。

作曲知識がゼロの方はもちろん、『独学での勉強に行き詰った』という方や『楽器を弾けるものの手癖でなんとなく済ませている』という方、『改めて基礎から学び直したい』という方まで、コード進行のための基礎理論から、実際にそれらを鍵盤で演奏するところまでを学びます。

本クラスの落としどころとしては『一般的な J-POP 程度の楽曲構造が理解できるようになる』ところまでの楽理知識の習得が可能です。

※本クラスは『楽理中等科』と隔年での開催となります。次回の開講は 2023 年度です。

授業内容

- ・ホールトーン・スケール
- ・メジャー・スケール／マイナー・スケール
- ・四度圈表
- ・メジャー・ダイアトニック
- ・マイナー・ダイアトニック
- ・同主長短調／並行長短調
- ・ケーデンス
- ・ケーデンスの 4 つのバリエーション：マイナーや行き、二次、裏、DC
- ・ディミニッシュ
- ・テンション
- ・調性拡張
- ・楽曲分析

授業では基本的に五線譜は使用せず、鍵盤およびコード譜を用いて進みます。特に『鍵盤を実際に弾く』事には多く時間が割かれますので、ごく基礎的なピアノ伴奏程度であれば出来るようになります。実際に演奏することで、打ち込みでの曲作りや、音感の啓発に理論を直結させることができます。

また、授業内容は受講生の理解度に応じて若干の変更の可能性があります。

定員：15 名

授業日：隔週水曜日 19:00 ~ 21:30

教程維持費：10,000 円（年額）

開催形式：オンライン／対面（本校）

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データを Vimeo にてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

菊地成孔

ジャズメンとして活動 / 思想の軸足をジャズミュージックに置きながらも、ジャンル横断的な音楽 / 著述活動を旺盛に展開し、ラジオ / テレビ番組でのナビゲーター、選曲家、批評家、ファンブルンドとのコラボレーター、映画 / テレビの音楽監督、プロデューサー、パーティーオーガナイザー等々としても評価が高い。

「一個人にその全仕事をフォローするのは不可能」と言われる程の驚異的な多作家でありながら、総ての仕事に一貫する高い実験性と大衆性、独特のエロティシズムと異形のインテリジェンスによって性別、年齢、国籍を越えた高い支持を集めつづけている、現代の東京を代表するディレッタント。

2010 年、世界で初めて 10 年間分の全仕事を USB メモリに収録した、音楽家としての全集「闘争エチカ」を発表し、2011 年には邦人としては初のインパルスレベルとの契約を結び、DCPRG 名義で「Alter War In Tokyo」をリリース。主著はエッセイ集「スペインの宇宙食」(小学館) マイルス・ディヴィスの研究書「M/D ~マイルス・デューイ・ディヴィス 3 世研究 (河出新書 / 大谷能生と共に著)」等。音楽講師としては、東京大学、国立音楽大学、東京芸術大学、慶應義塾大学でも教鞭を執る (04 年～ 09 年)。

楽理中等科

～ジャズ／ジャジーなサウンドを奏でよう

菊地成孔

定員：15名
授業日：隔週水曜日 19:00～21:30
教程維持費：10,000円（年額）
開催形式：オンライン／対面（本校）

このクラスでは、基礎的なコード理論の理解を前提に、さらにそれをジャズやボサノバ、R&Bなど、複雑な楽曲において使いこなすための音楽理論を学んでいきます。

独学で音楽理論をある程度使いこなせているという方でも、テンションやオルタード、モードといった高度な理論に関しては、なかなか独学だけでは行き詰まってしまいがちです。
音楽理論を極めて行く上で壁となる中級以上の理論体系を、実際の鍵盤の演奏や、楽曲分析を通して勉強していきます。

授業内容

- ・ダイアトニック統合（受講生のリテラシーの統一）
- ・調性拡張～オルタード・ドミナント
- ・モードⅠ
- ・モードⅡ
- ・ハイブリッド・コード
- ・コードとモードの統合
- ・楽曲分析

- 授業では基本的に五線譜は使用せず、鍵盤およびコード譜を用いて進みます。実際に演奏することで、打ち込みでの曲作りや、音感の啓発に理論を直結させることができます。
- 具体的な楽曲分析も数回予定しています。分析のための手法を講師と体験しておくことで、卒業後の独学での勉強に役立てることが出来ます。
- 授業内容は、受講生の理解度に応じて若干の変更の可能性があります。

受講条件

本クラスは音楽理論の基礎理解を前提として授業が進みます。

任意のコード進行に対して

- ・キーを同定できる
- ・ディグリー（I△7、II m7など）を割り当てられる
- ・ケーデンスラインを引く事が出来る
- ・一次ケーデンス／二次ケーデンス／裏ケーデンスをそれぞれ理解している
- ・テンション表記を理解できる
- ・平行長短調、同主長短調といった関係調の基礎理解がある

といったスキルが受講における最低ラインの目安となります。
完璧に理解できている必要はなく、細かい部分の知識の擦り合わせは行っていますが、土台となる基礎理解に関しては必須とさせて頂きますのでご注意ください。受講条件についてご質問等ありましたら、お申し込み前に事務局までご相談ください。

菊地成孔

ジャズメンとして活動／思想の軸足をジャズミュージックに置きながらも、ジャンル横断的な音楽／著述活動を旺盛に展開し、ラジオ／テレビ番組でのナビゲーター、選曲家、批評家、ファッションブランドとのコラボレーター、映画／テレビの音楽監督、プロデューサー、パーティーオーガナイザー等々としても評価が高い。

「一個人にその全仕事をフォローするのは不可能」と言われる程の驚異的な多作家でありながら、総ての仕事に貫する高い実験性と大衆性、独特のエロティシズムと異形のインテリジェンスによって性別、年齢、国籍を越えた高い支持を集めつづけている、現代の東京を代表するディレクタント。

2010年、世界で初めて10年間分の全仕事をUSBメモリに収録した、音楽家としての全集「闘争エチカ」を発表し、2011年には邦人としては初のインパルスレーベルとの契約を結び、DCPRG名義で「Alter War In Tokyo」をリリース。主著はエッセイ集「スペインの宇宙食」（小学館）マイ尔斯・ディヴィスの研究書「M/D～マイ尔斯・デューイ・ディヴィス3世研究（河出新書／大谷能生と共に著）」等。音楽講師としては、東京大学、国立音楽大学、東京芸術大学、慶應義塾大学でも教鞭を執る（04年～09年）。

作曲演習 ～良いメロディを作る

高山博

定員：12名
授業日：隔週水曜日 19:00～21:30
教程維持費：10,000円（年額）
開催形式：オンライン

楽曲の魅力の源泉ともいえる『メロディ』を作る技術を学ぶ講座です。

様々な理論や音楽の知識を習得していても、実際に曲を作るとなると行き詰まりがちなのが、メロディ＝旋律を作るということです。本講座では、才能や偶然で済まされがちなメロディの作曲を体系立てて学び、メロディを作るための方法を多面的に身に付けます。

メロディの流れを、ミクロな要素に分解して学んでいくことで、手癖や感覚に捕われずに、論理的にメロディを構築していくためのスキルが身に付きます。

なお、主としてポピュラー音楽の多くで用いられている、歌のメロディを中心に解説しますが、楽器のためのメロディや、メロ＝サビ以外の構成についても役にたつような内容となっています。

基礎から始め、歌詞とメロディの関係にも触れながら、『良いメロディ』を作るための技術を積み上げていきます。まずは短いフレーズをつくることから始め、オリジナル楽曲を仕上げていきます。

授業内容

- ・概論 メロディを支える構造は何か
- ・音程Ⅰ 様々な音程を使おう
- ・音程Ⅱ 様々な音域を使おう
- ・リズムⅠ 様々な長さの音を使おう
- ・リズムⅡ ビートパターンとメロディの関係
- ・スケールⅠ 長調や短調を使う
- ・スケールⅡ ペンタトニックやブルーノートを使う
- ・和声Ⅰ 機能和声とメロディ
- ・和声Ⅱ 機能和声以外の様々な和声とメロディ
- ・歌詞 歌詞を生かすメロディ、歌詞に生かされるメロディ
- ・構成Ⅰ 曲はどのように構成される
- ・構成Ⅱ 典型的な楽曲の構成
- ・作曲Ⅰ 曲のテーマを考える
- ・作曲Ⅱ 曲の部分に適したフレーズを考える
- ・作曲Ⅲ フレーズを発展させる方法
- ・作曲Ⅳ サビを作る
- ・作曲Ⅴ ワンコーラスを構成する方法
- ・作曲Ⅵ コーラス以外の部分を作る
- ・作曲Ⅶ 曲の始め方、終わり方
- ・作曲Ⅷ 曲をまとめる
- ・卒業制作実習Ⅰ 実習と添削
良いメロディとは何か
- ・卒業制作実習Ⅱ 実習と添削
良いメロディとは何か

授業アーカイブによる復習と補完

基本的にアーカイブは残さず、希望の場合に限りアーカイブします。授業欠席の場合など希望を頂けましたら記録し、Vimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

高山博

クラシックや民族音楽からポップスやロックまで幅広い知識と経験を持ち、CD、TVドラマ、イベント等、様々な分野で活躍中。アコースティック楽器とともに、コンピュータとシンセサイザーを使った音楽制作に、その最初期から取り組んでいる。

近年は執筆活動も盛んで、RitterMusic「サウンド&レコーディング・マガジン」「キーボード・マガジン」などに作曲や音楽理論に関する寄稿多数。著書としては「クリエーター直伝！DAW作曲＆トラック製作ビギナーズ・バイブル（共著）」「Logic Pro9 for Macintosh 徹底操作ガイド」など、DTM関連の書籍を多く出版している。

昨年上梓された『ビートルズの作曲法』『ポピュラー音楽作曲のための旋律法』では、独自の視点による作曲技法の体系が高い評価を得ている。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講座レポート掲載中

→ 検索 美学校 作曲演習 レポート

歌う言葉、歌われる文字

鈴木博文

定員：12名
授業日：毎月第四金曜日（年間14回）
19:00～21:30
教費維持費：15,000円（年額）
開催形式：オンライン／対面（スタジオ）

愛しい言葉を歌詞にすることは難しいことではありません。同じようにその歌詞を歌うという最終表現に導くことも、とても楽しいことです。

2時間半の短い時間内に一行でもいいから、自分の愛しい言葉で詞を書きましょう。

そしてそれをみんなで批評しましょう。ここで大切なのは言葉を表出する前に、その言葉は自分にとって本当に愛しいものなのか、という自己批判です。そこを少しでも、まあいか的にしてしまうと後々が困る。次々に出てくるだろう言葉の入った壺に蓋をしてしまうことになります。人はそれぞれに謎に満ちた自分だけの言葉の壺を持ち歩いているのです。他者に見られる、他者の詞を味わうというのはとてもいい経験になるはずです。

歌詞の講座ではあるけれど、講座を重ねる中で、詞を作り、曲も作り、そしてそれを自分で歌い自分の詞が曲になり「歌詞」になるところを体感して欲しいと思っています。

まずは詞が作れるようになることが目標。

作詞が精いっぱい、という人には曲づくりをサポート、詞と曲までという人にはサウンドをサポートします。

自分で最後まで仕上げられれば無論、協力し合って作品を仕上げ、ミニライブという形で数回発表していきます。

最終的に各自が楽曲2曲から3曲を仕上げ、最後の講座でライブをします。そして折角作った可愛い楽曲達、希望者には録音し音源化までわたしと一緒にたどり着きましょう。

【ミニライブ、曲作りについて】

本講座は「歌詞」の講座なので、まずは作詞に専念いただいて大丈夫です。素敵な詞をつくり、あとはこちらに委ねてください。曲作り、作品化までサポートします。曲作りも関心を持って取り組んでくださるのも大歓迎です。

ミニライブ等発表の場は、スタジオ／本校で開催予定です。オンラインで講座にご参加の方は、その時だけ来校いただけます。自身での収録をお願いすることになります。美学校から遠方の場合などは、別途ご相談の上決めていなければと思います。

【オンラインによる添削サポート】

本講座ではDiscordというオンラインチャットツールに課題作品をご提出いただきます。その際、ご提出いただいた作品は講座の時間外でも随時添削サポートを行います。オンラインで講師から添削やアドバイスを受けることができます。講座の時間外でもご質問やコミュニケーションをご活用いただけます。

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

鈴木博文

1954年5月19日、東京都生まれ。
1973年より、松本隆、矢野誠らとムーンライダーズ（オリジナル・ムーンライダーズ）として音楽活動を始める。実兄・鈴木慶一に誘われ、1976年にmoonridersに参加。バンドではベースを担当、また多くの作詞・作曲も手がける。

1987年に自身主催のインディペンデントレーベル「メトロトロン・レコード」を立ち上げると同時にアルバム『Want-Gan King』でソロデビュー。現在までに13枚のオリジナルアルバムを発表。レーベルのプロデューサーとしてさまざまなミュージシャンの輩出を支え続ける一方、アーティスト、アイドルへの作詞・楽曲提供、The Suzuki（w/鈴木慶一）、Mio Fou（w/美尾洋乃）、政風会（w/直枝政広）などユニット活動もあり。

執筆活動では『ああ詞心（うたごころ）、その綴り方』『僕は走って死になる—TEN YEARS AFTER』『九番目の夢』など。

実践！自己プロデュースと作品づくり ～作品を作り世に出すまで

入江陽

この講座では、「作詞、作曲」および音楽作品を何らかの形で世に「発表する」ことに特化して学び、実践していきます。

アーティストとしてどういったコンセプトで作品を作り、自分の音楽を世に出していくか？

歌ものにおいて魅力の“核”となる詞と曲のオリジナリティや世界観を掘り下げながら、完成した作品を実際に発表していくことまでが目標となります。

「自分の曲をサブスクリプションで配信したい」「好きなレーベルから作品をリリースしたい」「音楽単体ではなく、演奏動画の形でSNSやYouTubeで発表したい」などなど、受講生それぞれの技術やスタイルをカウンセリングしながら、各自が最適な形で自分の楽曲を世に出すことを目指します。

何か作るなら、できれば“楽しく”作品を完成させ、“いい気分で”“いい形で”発表したいものです。「作品づくり」は本来、うまく付き合えば「豊かな営み」であるはずです。

しかし「完璧主義」「忙しい」「人目も気になる」「方法がわからん」「きっかけも無い」「疲れた」など落とし穴はたくさん。

そんな障壁を乗り越え、皆さんと一緒に良い作品作りに取り組んでいければと思います。

授業内容

0) 個別カウンセリング

まずは開講前に講師による受講生個別のカウンセリングを行い、受講生の志向や現状を確認します。

1) 作戦会議

■目標の設定

年間／半年／月単位で目標を立て、制作を継続するための見通しを共有します。自分が楽しんで作品作りに取り組むためのゴールを明確に言語化し、全員で共有します。

■技術的ハードルを乗り越える

目標実現のための技術的ハードルなども具体的に吟味します。

■みんなでお互いをプロデュース

制作過程から全員で共有していくことで、受講生同士お互いにポジティブな意見交換を行うことが可能です。作品作りは最終的には孤独な作業ですが、そこで刺激を与え合いつつ切磋琢磨できる環境となっています。

2) 実作と講評

作戦会議で自分たちのやるべきことを明確にしたら、どんどん作品作りに取り組んでいただきます。

3) 座学

課題制作だけでなく、適宜インプットのための座学的なレクチャーも予定しています。

講師の作品を教材に曲作りのプロセスをレクチャーしたり、制作における相談や質問に答えていきます。

4) またまた作戦会議

制作の進捗に沿って、適宜作戦会議を行なっていきます。無理のない範囲で作品作りの継続を後押しします。

...

以上の要素を一年通して行なっていきます。

各自の目標達成にむけ、一年間楽しく頑張りましょう。

定員：8名

授業日：隔週木曜 19:00~21:30

教程維持費：10,000円（年額）

開催形式：オンライン

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

入江陽

1987年、新大久保生まれ・育ち。シンガーソングライター。映画音楽の制作や、文筆、プロデュースなども行う。

【シンガーソングライターとして】

最新アルバムは4枚目となる「FISH」(2017年)。

【映画音楽家】

「街の上で（今泉力哉 監督）」「月極オトコトモダチ（穂山茉由 監督）」「最低。（瀬々敬久 監督）」「タイトル、拒絶（山田佳奈 監督）」他。

【文筆】

雑誌『装苑』でNetflixなどの配信コンテンツを紹介する「はいしん狂日記」を、雑誌『ミュージック・マガジン』で、毎号ゲストを迎えるゲストが選んだ10曲について対談する「ふたりのプレイリスト」を連載中。

【その他の活動】

泉まくら、Have a Nice Day! TAMTAM、本日休演、宇宙ネコ子、後藤マスヒロなど、多彩なジャンルの音楽作品に、歌手としての客演多数。「あるあるネタ」を“共感詩”として発表するイベント 共感百景（2018年10月）に出演。レベル／出版社 MARUTENN BOOKSを主宰。さとうもかのフルアルバム「Lukewarm」「Merry go round」のプロデュース。

歌謡曲～J-POP の歴史から学ぶ 音楽入門・実作編 LL 教室

この講座では、日本のポピュラー音楽の歴史とそこで使われていた技術を学び、実作・講評を通してアウトプットしていきます。

ヒット曲がなぜ多くの人の支持を得て、歴史に残る形になっているのか？

現在までに蓄積された先人たちの歴史と技術の両方に向き合うことによって、独りよがりではないポピュラリティを獲得することを目指します。

歌謡曲～J-POP の歴史と呼応しながら“知る／聴く／作る”楽しさを学びます。

授業内容

1人で音楽制作を続けていると、使い慣れたパターンやルーチンに陥ってしまいますが、自作への講評をフィードバックさせる事で、これまで知らなかつたアプローチが出来るようになります。ヒット曲分析のオーソリティーである批評家チーム、LL 教室の3人が、あなたの才能を良い方向に伸ばす指導を行います。

授業は座学と実践を交互に行うカリキュラムで進行します。

【座学パートで扱うトピック】

- ・概論／「リズム歌謡」を考える（1）／1945～1968
- ・「リズム歌謡」を考える（2）／1945～1968
- ・フォーク～ニューミュージック／1969～1976
- ・バブル・YMO・産業ロック／1977～1989
- ・「J-POP」を考える／1990～2000
- ・ポスト「J-POP」を考える／2000～

【オンラインによる添削サポート】

本講座では Discord というオンラインチャットツールに課題作品をご提出いただきます。その際、ご提出いただいた作品は講座の時間外でも随時添削サポートを行います。オンラインで講師から添削やアドバイスを受けることができます。講座の時間外でもご質問やコミュニケーションをご活用いただけます。

「フレーズやメロディを考えることはできるけど、ひとつの楽曲として完成させることができない」、「作曲はできるけどアレンジが苦手」、「どのような音楽的アプローチを探ることが、自分の表現したいことに合っているのか知りたい」、「自分の作る／作ろうとしている音楽が、ポピュラー音楽史のなかのどこに位置づけられるのかわからない」という音楽制作者の方から、「教養・知識として日本のポピュラー音楽史を体系的に学びたい」というリスナーの方まで、幅広くご参加をお待ちしております。

詳しくは WEB で。

定員：15名

授業日：毎月第二日曜日（年間12回）

19:00～21:30

※開催週は変更の可能性あり。3月は第4週も開催。

教程維持費：10,000円（年額）

開催形式：オンライン／対面（スタジオ）

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データを Vimeo にてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

LL 教室

2015年、構成作家の森野誠一、日本語カヴァー曲研究家のハシノイチロウ、批評家の矢野利裕の3人によって結成されたユニット。

音楽イベントのDJ、ラジオ番組の選曲、J-POPについてのトークイベントを主催するなどの活動をしている。現在、市川うらら FM で「LL 教室の試験に出ない J-POP 講座」（土曜深夜25時～）放送中。

森野誠一

構成作家として主に音楽・バラエティ番組を担当。テレビ東京『ゴッドタン』の人気企画「芸人マジ歌選手権」ではマキタスポーツ presents Fly or Die にベーシストとして参加、「ROCK IN JAPAN FES」「COUNT DOWN JAPAN FES」などにも出演している。「Pop'n music」「太鼓の達人」などのリズムアクションゲームにも楽曲提供。

ハシノイチロウ

「洋楽の日本語カヴァー曲」研究の第一人者として、収集したレコードをブログやラジオなど各メディア上で紹介している一方、酸辣湯麺を食べ歩く活動では『マツコの知らない世界』（TBS）にも出演。

矢野利裕

著書『コミックソングが J-POP を作った』（P-VINE）、『ジャニーズと日本』（講談社現代新書）などで音楽と芸能について論じている。TBS ラジオ『アフター 6 ジャンクション』『荻上チキ Session-22』などに出演し、ジャニーズ楽曲やコミックソングについて解説など。

魁！打ち込み道場

～サウンドデザインとシンセシス、 プロダクションテクニック

n u m b

エレクトロニック・ミュージックを中心に、DTMによる音楽制作を総合的に学ぶ講座です。ジャンルの細分化が著しいエレクトロニック・ミュージックですが、あらゆる方面に応用可能なスキルを基礎からじっくり学びます。

・ミックス／サウンドデザイン

パンチのある低音から抜けの良い高音まで、現代的なエレクトロニック・ミュージックを作る上で必要とされるサウンドデザインのスキルを学びます。『良い音』を作る上で助けになる様々なプラグインを紹介、実際に使用しながら、如何にしてカッコいいサウンドを作っていくかを実践します。

・シンセサイザー

フリーで使えるシンプルなものから始め、まずは基本的な構造をしっかりと理解していきます。基本理解が深まつたら、より複雑なシンセの使い方や、実際の楽曲を参照しつつ様々なサウンドマテリアルを作るなど、応用的な内容に進みます。『この楽曲のこのサウンドはどのようにして作られているのか？』しっかり構造から理解しつつサウンドを作っていくことで、様々なシチュエーションに応用可能なスキルを身につけることが目標となります。
※受講生のレベルや理解度によって使用するシンセや授業進行は調整します。

・打ち込み実習

サンプラー やオーディオ編集等を用いてビートの打ち込みの実習を行います。特定のジャンルを想定したエレクトロニックなビート フィギュア構築の練習や、生っぽいドラムの打ち込み方まで、様々なビート制作を練習します。

・ライブ実習

クラスのアウトプットとして、中目黒 solfa など外部スペースを使ったライブ実習を予定しています。裏方志向の方も、実際にクラブ環境でのライブを経験しておくことで、出音への意識は確実に高まります。
※コロナウィルスの状況次第ではライブ実習は見合わせる可能性があります。あらかじめご了承ください。

授業内容

- ・シンセサイザーの概要
- ・シンセシス・テクニック
- ・サンプリング・テクニック
- ・様々なサウンド・デザイン
- ・ビート打ち込み実習
- ・ミックス
- ・DAW のスキルやミックスダウンのテクニック
- ・モジュラー・ソフトウェア・シンセサイザーについて
- ・コントローラー等のエレクトロニック・デバイスについて
- ・ラップトップ等のエレクトロニック・デバイスを使用したライブ・パフォーマンスについて

※使用機材について

授業では ableton LIVE を使用します。ソフトに依存したレクチャー内容も多くなりますので、受講に際しては『ableton LIVE suite』をご用意頂くことを推奨いたします。ableton LIVE suite 未所持の方は受講の際にご相談ください。なお、ソフトの使用スキルは問いません。初心者の方もお気軽にご相談ください。

定員：12名

授業日：不定火曜日 19:00～21:30

教程維持費：10,000円（年額）

開催形式：オンライン

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データを Vimeo にてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

n u m b

New York Institute Of Audio Research、エンジニアリング科卒業。Hip Hop グループである『Buddah Brand』のマニピュレーターとしてキャリアをスタートする。

1995 年より Numb 名義でのアーティスト活動を始動。シンセサイザーやコントローラー等のエレクトロニック・デバイスやラップトップを用いた演奏活動も数多く行っており、< FUJI ROCK FESTIVAL > や < Metamorphose > 等、海外ではパリで行われた < Batofar > や、アムステルダムの < Sonic Light >、そしてデンマークの < Future Sound Of Jazz Festival > 等で演奏している。自身のレーベル『Revirth』を主宰し、2012 年には約 6 年ぶりとなる 4th アルバムをリリースした。

国内エレクトロニック・ミュージック・シーンの立役者として、その黎明期から今日まで活躍中。

サウンドプロダクション・ゼミ

横川理彦

定員：12名
授業日：隔週月曜日 19:00～21:30
教科維持費：10,000円（年額）
開催形式：オンライン

このクラスでは、アーティストとして自分の音楽作品のオリジナリティを模索し、表現の幅の拡大とクオリティの向上が目標となります。

商業／非商業を問わず、アーティスト／音楽家として自分の表現を確立するために必要なものは何か？自分の世界観を掘り下げ、オリジナリティを確立していくと共に、様々な習作や作品講評を通して、受講生各自が必要な技術を並行して鍛えていきます。

授業内容

【前半】基礎編

授業前半では、全員共通の課題として、音を扱う上での様々な視点やテクニックを紹介していきます。

各テーマ毎に課題が出されますので、その課題制作と講評を通して基本的なスキルを身につけていきます。

1) ビートとリズム

さまざまなリズム、呼吸と心拍、体と動き

2) 音を周波数で聴く

低音－中音－高音の違い。音楽ジャンルと音域。

ノイズからサイン波まで

3) EQ、コンプ

周波数デザインの基本

4) コードとメロディの関係

楽器、スケール、モード

5) ベース

コードやメロディとの関係

モダンなベースサウンドと低音のデザイン

6) サチュレーター／ディストーション

歪みによるサウンド作り

7) 音楽のジャンルとコピー

DAWによるサウンドの作りかた

【後半】実践編

授業前半では、全員共通のテーマで課題を行ってきましたが、後半からは、個別の作品制作実習に進みます。

前半の課題をこなす中で見えてきた各自の強みや個性を生かし、それらをオリジナル作品として昇華させていきます。

作編曲、打ち込み、ミックスから、人によっては作詞に至るまで、豊富な音楽知識を持つ講師の個別指導により、『自分の作りたい音楽』を各自ブラッシュアップしていきます。

【使用する DAW】

基本的には自由です。すでに使い慣れたソフトがある方はそちらを使用ください。なお、講師は ableton LIVE を使用しますので、ableton LIVE ユーザーであればより授業を効果的に受けることが可能です。特にこれから打ち込みを始めたいという初心者の方は ableton LIVE を推奨いたします。

授業アーカイブによる復習と補完

基本的にアーカイブは残さず、希望の場合に限りアーカイブします。授業欠席の場合など希望を頂けましたら記録し、Vimeo にてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

横川理彦

作編曲、演奏家。80 年に京都大学文学部哲学科を卒業後、本格的な演奏活動に入る。4-D、P-Model、After Dinner、Metrofarce、Meatopia 等に参加。電子楽器と各種生楽器を併用する独自のスタイルに至る。海外でのコンサート・プロジェクトも多数。

現在は、即興を中心としたライブ活動などのほか、演劇・ダンスのための音楽制作など多方面で活動中。また、コンピュータと音楽に関する執筆、ワークショップなども多い。ヨーロッパ、アフリカ、アラブ、日本と、世界中の音楽の DNA を徹底的に研究し、自身の作品に貪欲に取り入れる。

昨年 Whereabouts Records よりリリースした最新プロジェクト『RedRails』では、自身のヴァイオリンとエレクトロニクスに、フランス人トラッドミュージシャンとの即興を取り入れ、繊細な電子音響を構築した。

アレンジ & ミックス・クリニック ～自分の楽曲の完成度を高める

草間敬

定員：8名
授業日：隔週木曜日 19:00～21:30
教程維持費：10,000円（年額）
開催形式：オンライン

本講座では、音楽作品のクオリティを決定する重要なファクターである『アレンジ（編曲）』と『ミックス』を中心に学びます。

楽曲の構成や編成を練り上げ（アレンジ）、それらを魅力的なサウンドに落とし込んでいく（ミックス）ことは、思いついたメロディや音楽的アイディアをより良い形でリスナーに伝えるためにますます重要になってきています。

しかしアレンジやミックスは流行やジャンルなどによって大きく左右される要素であり、常に不变の“正解”が存在しないため、制作に当たってジャッジに迷う方も多いのではないでしょうか。

この講座では、時代を問わず必要な普遍的な基礎スキルから、より実践的な現在進行形のスタイルに至るまで、各自の音楽作品をより良い形でプレゼンテーションするための技術を身につけることを目指します。

「自分の求めるサウンドにとってのゴールがどこなのか？」を把握し、そのために必要な技術を習得し、そして経験豊富な講師のフィードバックを浴びることで、確実に自分の目指すサウンドに近づくことができるでしょう。

授業内容

毎回の授業では、受講生の作品講評と講義を行います。

作品講評では、受講生の作品を聴き、良いところ・改善した方が良いところなどを全員で話し合います。講師からの指導のみならず、趣味志向や活動ジャンルの異なる受講生同士が切磋琢磨しあうことが出来ます。少人数クラスの強みを生かし、各自の個性を尊重しながら楽曲クオリティの向上を目指します。

講義では、アレンジやミックスに関する知識を基礎から実践まで解説していきます。5月～9月までは基礎的なトピックを扱い、10月からはより実践的な内容にすすみます。また、受講生のレベルや理解、リクエストなどに応じて適宜内容は変動します。加えて、講義だけでなく受講生のプロジェクトファイルを添削する形でアレンジやミックスを実演するなど、実践的かつ具体的な内容になっています。

[講義/パートで扱うトピック]

◆ 5月～9月【基礎編】

- ・音楽理論基礎
- ・ベース、上物など
- ・ミックス基礎
- ・アレンジ&ミックス実演

◆ 10月～3月【応用編】

- ・メーターと音圧
- ・ミックス応用
- ・アレンジ&ミックス実演

[Discordによる授業サポート]

本クラスではチャットアプリのDiscordを用いて授業時間外のコミュニケーションを行います。課題提出や講師からのフィードバックなど、授業を補完する使い方に加え、オススメ曲や情報のシェアなど、受講生同士の交流も行うことができます。詳しくはWEBで。

☆もっと詳しく知りたい方は…

WEBで講師インタビュー掲載中

→ 検索 美学校 アレンジ インタビュー

授業アーカイブによる復習と補完
基本的にアーカイブは残さず、希望の場合に限りアーカイブします。授業欠席の場合など希望を頂けましたら記録し、Vimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

草間敬

アレンジャー、レコーディングエンジニア。

音楽理論からシンセサイザーまで幅広いスキルを有し、AA=, 金子ノブアキ, KenKen, RIZE, [Alexandros], BIGMAMAなど、20年以上に渡って多くのミュージシャンの制作に関わる。

ableton Live認定トレーナーでもあり、ableton Liveに関するレビューや講演も多数。近年は制作のみならずライブオペレーションでも活躍中で、AA=, 金子ノブアキ, SEKAI NO OWARIなどのステージをサポートする。

レコーディングコース・プレミアム

～ミックスを中心にサウンドデザインを学ぶ

中村公輔

音楽作品をデザインしていくための『録音』と『ミックス』の知識とスキルを基礎から学ぶ講座です。音楽作品を創る上で、音の入り口から出口までをトータルで高いクオリティで仕上げられるようになるための技術を身につけていきます。

『良い音』の価値観は時代によって移り変わっていきますが、自分の作りたい音がどういうものなのかを知り、意図した音にデザインしていく技術は、流行に関係なく、作品を作り続けるための武器になります。

「自分たちの演奏の録音を自分たちで行いたい」というバンドマンや、宅録作品のクオリティアップを目指したい方、裏方としてバンドの録音やミキシングなど、録音エンジニアリングに携わりたい方までが対象となります。

授業内容

[録音編]

- 1) イントロダクション～マイクの種類
- 2) マイクの種類、Vo録音
- 3) アコースティックギター録音
- 4) エレキギター録音
- 5) エレキベース録音
- 6) ドラム録音

録音編はコロナウィルスの状況を鑑み、座学中心で行います。
基本的なバンドスタイルの録音を基本として学ぶほか、受講生のリクエストに応じてピアノ録音や弦楽器録音なども適宜扱います。

[ミックス編]

- 1) フェーダー
- 2) EQ
- 3) コンプレッサー
- 4) リバーブ、ディレイ
- 5) 実践

ミックス編は授業各トピックごとに講義パートと実習パートを交えながら進みます。
学んだ内容を実際のミックス作業と講評を通してアウトプットしていきます。

汎用的なミックスの方法を教科書的に学ぶだけでなく、それらを具体的な音楽性やジャンルの中で如何に駆使していくか?を重視したカリキュラムとなっています。

定員：12名

授業日：隔週金曜日 19:00～21:30

教程維持費：10,000円（年額）

開催形式：オンライン

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

中村公輔

サウンドデザイナー、レコーディングエンジニア。

エレクトロニカ・ユニットneinaのメンバーとして1999年にドイツMille Plateauxよりアルバム「formed verse」をリリース。2000年に同メンバーによる別ユニット繭(maju)をオーストラリアExtreme Recordsより、ソロ・プロジェクトKangarooPawを自身のレーベル深海レコードよりリリース。

作風はIDMから60～70年代のロックを基調としたフォークトロニカの様なサウンドまで多彩。

ミキサー、アレンジャー、エンジニアとしては、toe、dill、Natural Punch Drunker、フルカワミキ、AUTO PILOT、REACH、Back Drop Bombなど、ジャンルレスに数多くのアーティストを手がけている。近年はCM音楽の作曲や、ライターとして各誌へ寄稿するなど活動の幅を広げている。

2012年には、『ビートルズの架空の未発表音源を再現する』というコンセプトのプロジェクト『the Bootles』の中心人物として、ソングライターとしてのみならず、高いサウンドデザインのセンスを披露し話題を呼んだ。

美楽塾

JINMO+不定期でゲスト

定員：10名

授業日：月曜 20:00～22:00

(毎月 1～3回／年間 20回)

※開催日は、参加受講者間で予定調整を行い決定していきます。

教程維持費：10,000円（年額）

開催教室：外部

かつて松下村塾の吉田松陰師はいった、「諸君、狂いたまえ」。

現代の芸術教育などに於いては、"如何に処理して、如何なるアウトプットを実現するのか"ということのみに眼が向けられ、それを当然として疑う者が少ない。

しかし、真実には、そうした技術論以前に "如何なるインプットを" という問題こそ重要であり、良質のインプット無しには良質のアウトプットはあり得ない。

食べたものに応じたウンコしか出る訳があるまい。

美しいインプットに貪欲であれ。

本講義は芸術表現の技法や知識といった "情報" の伝授の場ではない。

五感、総ての感覚器官で対峙する状況における美の "体験" を実感する場としたい。

その為に例え非常識と謗られようと校舎といった限定空間を拒絶し、また決まった曜日・時間といった予めの決め事からも解放された講義にする。

また講義中の飲酒、喫煙、飲食、放尿、飲尿、全裸、自慰、緊縛、女装、Tweet などは完全に OK (総て過去実際におこなわれた) だ。

更に何をしても良いという自由だけでなく、何もしなくても良いという自由も同時に、私は保証する。

頻繁に各界から刺激的なゲストも呼ぼう。

数十世紀の時間の中でエスタブリッシュされた "美学" の中ではなく、歴史的堆積や文化的共通認識といった情報現実のもたらすフィルター類に干渉されない、各受講生中の絶対的な唯一個の "美意識" の天真爛漫な自由奔放を実現したい。

幼子の頃、泥だらけ、傷だらけになる事も厭わず、「晩御飯ですよ」という母親の声も耳に入らず、常識通念も規則規範も社会的承認とも無縁に、日暮れの幼稚園の砂場で一心不乱に遊んでいた時の砂の触覚美、草の嗅覚美、土の味覚美、風の聴覚美、そしてふと眺めた夕焼けの視覚美…、まだフィルターを身に纏わなかったその頃、対峙する状況には豊富な美との邂逅が確在し、美の価値の上下などそこには無く、幼子の五感に世界は美しかった。

今日において成長や学習とは果たして、世界をより美しく知覚させてくれるのだろうか。

畢竟、美とは学ぶものなのか。

諸君、"美楽塾" とは、永遠の砂場である。

共に世界を遊び狂い、美を楽しみ狂おう。

諸君、狂いたまえ。

JINMO

書家を母に持ち、幼少期から書を始める。絵画、書、コンピュータ・グラフィックス、アニメーション等、表現のメディアやジャンルに拘らない視覚芸術を創出する一方、ギター奏者としても活動。国内はもとより海外で数百回に及ぶ公演をおこなっている。また、『ギター・マガジン』にコラムを連載するなど、多方面に活躍する。

過去のゲスト講師

遠藤ミチロウ（ミュージシャン）、クラース・ヘックマン（ミュージシャン）、GMナイル（ナイルレストラン店主）、なつみ女王様（BDSM）、大野慶人（舞踏家）、クリストフ・シャルル（武蔵野美術大学准教授・メディアアート）、岡田聰（精神科医 / MAGIC ROOM??? オーナー）、住倉カオス（猥談家）、いくさばら とれは（肉体改造）、珍佐清（浅草ロック座総監督）、安達かおる（監督、V&R 代表）、浅井隆（アップリンク社長、映画プロデューサー）、山田聖子（株式会社アートジャパン代表、靖山画廊代表）、Abe "M" Aria（ダンサー）、スティーヴ エトウ（パーカッショニスト、重金属打楽器奏者）、Jan Marsupials Spanedal（パーカッション・ドラム奏者、"Marsupium Massacre" 代表）、Jaakko Saari（ドキュンタリー映像作家・フォトグラファー）、Kid'O（ショップ "Kurage" オーナー、Specializing in latex art）、ANANYA（媒体業）、白柳龍一（ナクソス・ジャパン株式会社 取締役副社長 COO）、瀧川虚至（メカニック・イラストレーター、画家）、小倉正史（美術評論家）、山岸厚夫（漆象、漆工芸作家）、Dawn Mostow（ファッショントレーナー）、ダニー田中（マジシャン）、久住昌之（漫画原作者）、上祐史浩（「ひかりの輪」（東西の思想哲学の学習教室）の代表）、臼井欽士郎（プロボクサー）、山浦嘉久（思想活動家 国際政治研究家）、Chris Cardone（Bass Player）、坪内隆彦（ジャーナリスト、『月刊日本』編集長）、武田崇元、山岸厚夫・山岸芳次、マリア、杉原悠久、木戸茂成、坪内隆彦（ジャーナリスト、『月刊日本』編集長）、小室芹奈（元AV女優、緊縛師、タレント）、牧田碧（歌人）

JINMO

☆もっと詳しく知りたい方は ...

WEB で講座レポート、受講生座談会を掲載中

→ 検索 美学校 美楽塾 レポート（または座談会）

境界芸術への旅 ——アートとデザインと民俗学と人類学 佐藤直樹+中村寛+福住廉

画家・デザイナー・アートディレクターの佐藤直樹、文化人類学者の中村寛、美術批評家の福住廉の3名による新講座です。アート、デザイン、民俗学、人類学を起点に美術と学術が交差する境界領域に焦点をあて、そこから立ち上がる未来的な問題系を探っていきます。

アートとデザイン。まず、この二つの概念の関係についてあらためて整理し直してみたいと考えました。その際に民俗学や人類学の視点を外すことができないと想い至ったのは、岡本太郎さんをはじめとした幾人かの美術家の仕事を理解する流れからでした。もちろん、評価が定まった過去の偉人としてではなく、それぞれの活動の現在性を問う過程においてです。この講座では、アートとデザインの間のみならず、民俗学と人類学の間にも横断線を引き、カテゴリー的に分断されてきたがゆえの意識の硬直を解いていきます。と同時に、現代の「ものづくり」「ことづくり」とはどういったものなのか、個々にはどのような行動が必要かつ可能なのか、といった点も探ります。これらのプロセスを経ることは、来るべき芸術運動のためにどうしても避けて通れない流れだろうという確信を抱いています。それは生存に不可欠な要素でもあるはずです。(佐藤直樹)

美術（アート・デザイン）とともに学術（人類学・民俗学）できないか——漠然とそんなことを思ってきました。たとえば、描き手とともに描きながらなにごとかを考えられないか、あるいは、デザイナーとともに考えデザインすることが人類学を形成できないか、と。学術と美術とが接近するとき、なにが起こるのでしょうか。そもそも学術と美術とは、「別のもの」だったのでしょうか。細分化され続けてきた学問・美術の諸領域を無視するのは大変です。けれど、だからこそ、この授業では見えにくくなってしまいがちな基本に、何度もたちかえりたいと思います。産まれてから死ぬまでの過程に「あるく、みる、きく」や「書く、描く、つくる」があり、それらすべてに通底する「交わる、感じる、考える」がある——ヒトの営みをそのように捉えるとき、学にかかわる術も、美にかかわる術も、その類型からぶれてはみだし、混淆し合う姿が垣間見えるはずです。それを「境界領域 liminality」（ヴィクター・ターナー）に立ち現れる《境界芸術》と呼んでみたいと思います。(中村寛)

この20年のあいだに生じた現代美術と民俗学の接近を「民俗学的転回」と名づけました。直接的には、芸術祭の隆盛やリサーチという方法論の一般化、そしてヴァナキュラー（土着文化）への関心の高まりなどを指していますが、重要なのはそれが新たなモードではまったくなく、数々のモードを生み出してきたモダニズムという構造にたいする根本的な疑義の現われであるという点です。鶴見俊輔の「限界芸術論」や今和次郎の「考現学」、赤瀬川原平らの「路上観察学会」のように、それは地下水脈として歴史の中に潜在していましたが、もはや無視できないほど大きなうねりとなって現象しているのが、ここ数年の現代美術の特徴であると診断できます。この講義では、そのアートと民俗学が時間的かつ空間的に重複する境界領域を、デザインと人類学というもうひとつの横断線を手がかりにしながらまさぐりだし、それらを想像力によってとらえながら、講師自身や受講生諸君のそれぞれの実践に結びつけたいと思います。それは過去の芸術を整理し直すように見て、じつのところ未来の芸術にとっての新たな原点となるにちがいありません。(福住廉)

【関係する語彙・人物など】

アートヒストリー／フィリップ・アリエス／人類学の射程／ジェームズ・フレイザー／マルセル・モース／レヴィ=ストロース／岡本太郎／デザインリテラシー／木村恒久／粟津潔／民俗学と近代／柳田國男／折口信夫／南方熊楠／宮本常一／限界芸術論／鶴見俊輔／考現学／路上観察学／超芸術／今和次郎／宮武外骨／赤瀬川原平／キッチュ論／石子順造／ヴァナキュラー／山本作兵衛／暴力／非社会／ヴィクター・ターナー／ティム・インゴルド／デザイン人類学……

※当講座の内容を基に書籍化を計画しています。

定員：8名

授業日：隔週木曜日 19:00～22:00

教課程維持費：10,000円（年額）

開催教室：本校

佐藤直樹

1961年東京都生まれ。北海道教育大学卒業後、信州大学で教育社会学・言語社会学を学ぶ。美学校菊畠茂久馬絵画教場修了。肉体労働から編集までの様々な職業を経験した後、1994年、『WIRED』日本版創刊にあたりアートディレクターに就任。1998年、アジール・デザイン（現アジール）設立。2003～10年、アート・デザイン・建築の複合イベント「セントラルイースト東京（CET）」プロデュース。2010年、アートセンター「アーツ千代田3331」立ち上げに参画。2012年、アートプロジェクト「トランスマーケット（TAT）」参加を機に絵画制作へと重心を移す。サンフランシスコ近代美術館パーマネントコレクションほか国内外で受賞多数。著書に『無くならない——アートとデザインの間』（晶文社）、画集に『秘境の東京、そこで生えている』（東京キララ社）、展覧会図録に『佐藤直樹 紙面・壁画・循環——同じ場所から生まれる本と美術の話』（美術出版社）など。札幌国際芸術祭2017パンドメンバー。3331デザインディレクター。多摩美術大学教授／芸術人類学研究所員。<http://satonaoki.jp/>

中村寛

専門は文化人類学。「周縁」における暴力、社会的痛苦、反暴力の文化表現、脱暴力のソーシャル・デザインといったテーマに取り組み、『人間学工房』を通じて文化運動をおこなう。宇都宮で生まれ、ピッツバーグ、東京、横浜、シカゴなどで育つ。言葉から逃げたくて音楽をやっていたが挫折し「言葉の世界」へ。「9.11同時多発テロ」の約一年後からニューヨーク・ハーレムの黒人ムスリム・コミュニティにて約2年のフィールドワークをおこなう。2008年から多摩美術大学を中心にいくつもの大学で講義・ゼミをもつ。大学で出会うつくり手たちが、「美術」を捉え直す機会を与えてくれた。2020、21年度はグッドデザイン賞に「外部クリティーク」としてかかる。著書に『アメリカの〈周縁〉をあるく——旅する人類学』（平凡社、2021）、『残響のハーレム——ストリートに生きるムスリムたちの声』（共和国、2015）。編著に『芸術の授業——Behind Creativity』（弘文堂、2016年）。訳書に『アップタウン・キッズ——ニューヨーク・ハーレムの公営団地とストリート文化』（テリー・ウイリアムズ・ウィリアム・コーンブルム著、大月書店、2010）。人間学工房代表・多摩美術大学教授。<https://www.ningengakukobo.com/>

福住廉

美術評論家。著書に『今日の限界芸術』（BankART 1929、2008年）、共著に『路上と観察をめぐる表現史——考現学の現在』（フィルムアート社、2013年）、鴻池朋子『どうぶつのことば——根源的暴力をこえて』（羽鳥書店、2016年）、青野文昭『AONO FUMIAKI NAOSU』（T&M PROJECTS、2020年）ほか。共訳にジェイムズ・クリフォード『ルーツ——20世紀後期の旅と翻訳』（月曜社、2002年）。共同通信で毎月展評を連載しているほか、「今日の限界芸術百選」（まつだい「農舞台」ギャラリー、2015年）など展覧会の企画も手がける。

【オープン講座】

映画を聴く

岸野雄一

定員：30名

開催期間：5月～8月（全8回）

授業日：火曜日 20:00～22:00

(5/10、5/24、6/7、6/21、7/5、7/19、
8/9、8/23)

受講料：25,000円

開催形式：オンライン

この講座では、映画における音／音楽の歴史や方法論、その効果を読み解く技術、すなわち『映画の聴き方』を身につけていきます。

優れた映画音楽とはどういうものなのでしょうか？優れた音楽がそのまま優れた映画音楽にはなる訳ではなく、映画音楽には独自の技術や方法論が要請されます。

また、映画と音楽の関係に絶対的な正解は存在しません。代わりに、20世紀以降の映画史が積み上げてきた膨大なトライ＆エラーの歴史があります。

普段何気なく観ている映画のワンシーンも、そうした映画音楽独自の文法や技術の蓄積の結果として成立しているのです。

授業では講師の所有する膨大な映像アーカイブをプレイバックしながら、20世紀以降の映像の発達史から、21世紀現在にまで繋がる音と映像の発展史を解説し、概念と方法論を体系化していきます。

授業内容

第1回：映画における音のレイヤー

第2回：アンダースコアとソースミュージック

第3回：映画音楽の起源

第4回：サイレントからトーキー

第5回：音のフレームと主観的聴取

第6回：ライトモチーフについて

第7回：映画における音楽の効用

第8回：音と映像のテンポ感・リズム感

【授業で扱う映画】

○赤西蠣太 / 伊丹万作 ○秋日和 / 小津安二郎 ○アタラント号 / ジャン・ヴィゴ ○あの胸にもう一度 / ジャック・カーディフ ○アレキサンドル・ネフスキ / セルゲイ・エイゼンシュタイン ○イージーライダー / デニス・ホッパー ○偽りの花園 / ウィリアム・ワイラー ○インセプション / クリストファー・ノーラン ○インディ・ジョーンズ / 魔宮の伝説 / スティーヴン・スピルバーグ ○雨月物語 / 溝口健二 ○浮草 / 小津安二郎 ○エクソシスト / ウィリアム・フリードキン ○女は女である / ジャン・リュック・ゴダール ○影なき狙撃者 / ジョン・ランケンハイマー ○陽炎座 / 鈴木清順 ○狩人の夜 / チャールズ・ロートン ○キルビル / クエンティン・タランティーノ ○グエマル / ポン・ジュノ ○グランドホテル / エドマンド・グールディング ○ケーブルホーリーのパラード / サム・ペキンパー ○黒衣の花嫁 / フランソワ・トリュフォー ○座頭市暴雨火祭り / 三隅研次 ○サスペリア 2 / ダリオ・アルジェント ○白い恐怖 / アルフレッド・ヒッチコック ○ジョーズ / スティーブン・スピルバーグ ○地獄の黙示録 / フランシス・フォード・コッポラ ○ショック集団 / サミュエル・フラー ○須崎バラダイス / 赤信号 / 川島雄三 ○続・夕陽のガンマン / セルジオ・レオーネ ○ソーシャル・ネットワーク / デヴィッド・フィンチャー ○ゾンビ / ジョージ・A・ロメロ ○テシス・次に私が殺される / アレハンドロ・アメナーバル ○テキサスの5人の仲間 / フィルダー・クック ○天国と地獄 / 黒澤明 ○どですかでん / 黒澤明 ○トラトラトラ / リチャード・フライシャー ○2001年宇宙の旅 / スタンリー・キューブリック ○日本橋 / 市川崑 ○ファンタジア / ベン・シャープスティーン ○風船 / 川島雄三 ○フェイスオフ / ジョン・ウー ○ブルー / 安藤尋 ○ペレリン天使の歌 / ヴィム・ヴェンダース ○北北西に進路を取り / アルフレッド・ヒッチコック ○僕の伯父さんの休暇 / ジャック・タチ ○マーティ / デルバート・マン ○マリー・アントワネット / ソフィア・コッポラ ○見知らぬ乗客 / アルフレッド・ヒッチコック ○乱れ雲 / 成瀬巳喜男 ○未知との遭遇 / スティーブン・スピルバーグ ○ラストタンゴインパリ / ペルナルド・ベルトルッチ ○リッチ・アンド・ストレンジ / アルフレッド・ヒッチコック ○ロングストヤード / ロバート・オルドリッ奇ほか、随時、多数。

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データを Vimeo にてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

岸野雄一

音楽家、オーガナイザー、著述家など、多岐に渡る活動を包括する名称としてスタディスト（勉強家）を名乗り活動中。レベルオーナーとしては "Out One Disc" を主宰し、OORUTAIKI や Gangpol & Mit など個性豊かなアーティストをプロデュース。オーガナイザーとしては Max Tundra 日本ツアーのアテンドをつとめるなど、常に革新的な『場』を模索している。

そしてアーティストとしては、人形劇＋演劇＋アニメーション＋演奏という総合的な表現に挑戦した音楽劇『正しい数の考え方』が第19回メディア芸術祭エンターテインメント部門で大賞を受賞した。

裏方からフロントマンまで、あらゆるフィールドを表現の舞台として活躍中。

Q & A

▼入学試験はありますか？

ありません。申込みをして学費を納入すれば、誰でも入れます。年齢や学歴による制限もありません。

▼高校生ですが入れますか？

入れます。不安があればご相談ください。

▼未経験者でも大丈夫ですか？

大丈夫です。どの講座でも、経験者と未経験者が混じって受講していますが、原則的に未経験者を前提として授業を進めていきます。ただ音楽系の一部教程では、経験者を前提としている講座がありますので、ご注意ください。その場合は、講座のページに明記しています。

▼学校見学会や説明会はありますか？

あります。毎年冬から春にかけて月3回程の頻度で行っています。見学会・説明会以外にも、個別の学校見学や入学相談など随時受け付けていますので、ご希望の方は、気軽にお問い合わせください。

▼申込み時期はいつですか？

5月期（新年度）の募集は、前年の12月後半から、10月期（編入）の募集は、8月中旬頃から開始しています。申込み締切りは、5月期は3月末、10月期は9月末です。先着順ですので、お早めにお申込みください。

▼1クラスの平均人数を教えてください？

少ないところで2,3人から、多くても10人程度です。楽理基礎科のみ15人程で授業を行っています。

▼課題はどれくらい出ますか？

講座によって異なりますが、社会人の方も多く来ていますので、そういった方々が時間的にこなせないような量の課題が出ることはありません。

▼授業見学はできますか？

できます。連絡なしでいきなり授業見学に来ていただいても構いませんが、学外で授業を行っている場合もあるので、念のため事前にお問い合わせください。

オンライン教程の場合は「4) オンライン授業の見学について」を確認の上ご参加ください。

▼修了試験はありますか？

ありません。講座の修了について、試験や単位、修了制作などの制限が課されている講座はありません。

▼授業以外の時間で教室は使えますか？

使えます。午前中は授業がないので、いつでも使えます。午後と夜は、授業が入っていない時であれば使えます。使用目的としては、制作や受講生同士のミーティングなどが多いですが、たまに飲み会なども開かれているようです。使い方でわからないことがあれば、事務局スタッフに聞いてください。

▼どんな人が来ていますか？年齢、職業、男女比を教えてください。

老若男女様々な人が来ています。高校卒業後に来る人、大学（美大生だけでなく一般大生も）や専門学校に通いながら来る人、大学や専門学校を卒業して来る人、フリーター、社会人、会社を辞めて来る人、主婦、留学生など年齢や職業は様々です。年齢層は、美術系の講座は20代～30代が多く、音楽系の講座は30代が多いです。男女比は、美術系の講座は、6:4、7:3ぐらいで女性が多く、音楽系の講座は、8:2ぐらいで男性が多いですが、少人数のため年によって大きく変わることがあります。

▼修了生はどんな活動をしていますか？

本当に様々な仕事、活動をしています。中には、著名なアーティスト、イラストレーター、デザイナー、編集者、漫画家（etc.）などになった人もいますが、表に名前が出ない人でも面白い活動をしている人、いい作品を作り続けている人は数多くいます。また、美学校を出てから何かになるのではなく、既にアーティストやデザイナー、イラストレーター、ミュージシャン、編集者（etc.）として活動している人たちも来ています。

▼資格が取れたり就職できたりしますか？

資格を取るための講座は開講していません。就職の斡旋もしていません。資格や職を求めてこの学校に来る人はいないようです。

▼子どものクラスはありますか？

あります。NPO法人AEES主催で「子どものアトリエ」という講座を小学生対象で開催しています。詳細は美学校のWEBをご覧ください。

美学校 本校 見取り図

美学校は、神田神保町の路地にある貸しビルの3階にあります。1970年にこの場所に越してきてから50年が経ちました。歴史を経て作り上げられてきた美学校の内部をご紹介します。



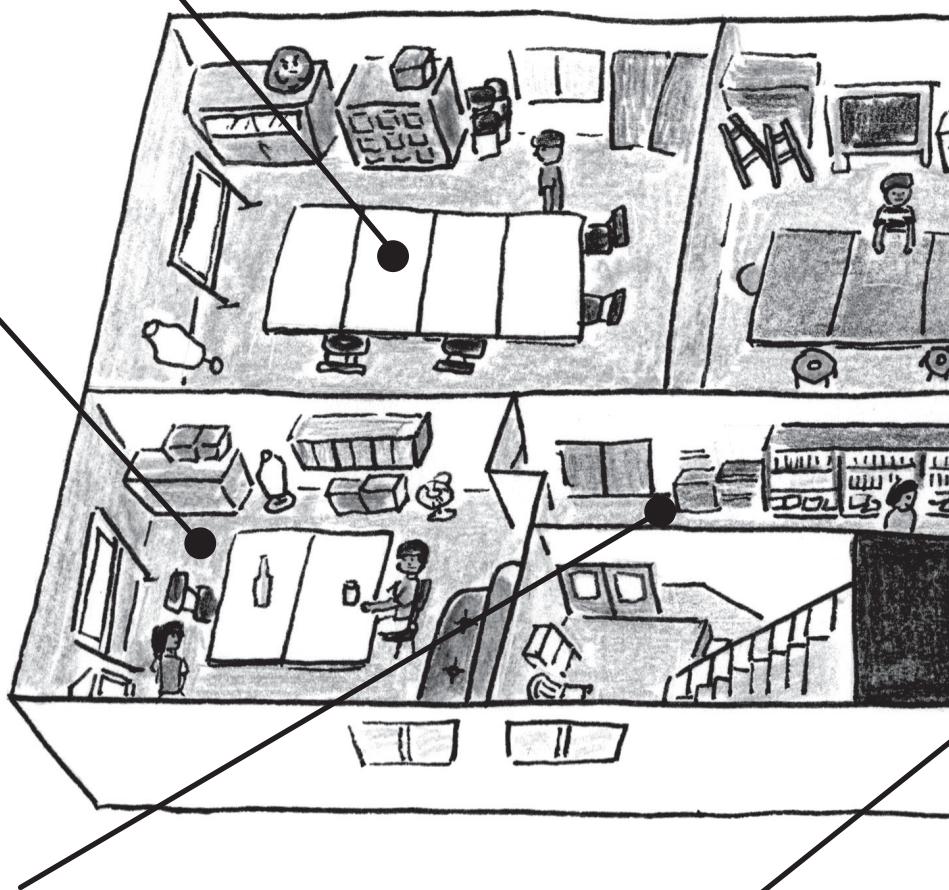
教場 1

通常の授業で使用しています。普段は合板を5枚並べたテーブルを囲んで授業を行っています。土日は、テーブルを片付けて、イベントやワークショップを開催することもあります。



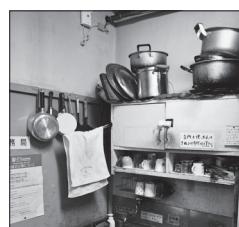
小教場

講義系の授業が行われていたり、当校代表の藤川が本を読んでいたりします。相談事があれば藤川へ。入学相談から人生相談まで色々な話を聞いてくれます。授業時以外は開放しているので、気軽に入ってみてください。



廊下

展覧会やイベントのチラシやポスターがはられていたり、本棚には1970年代からの『ガロ』や『美術手帖』など貴重な本があつたりします。本棚の一画は棚ガレリという小さなギャラリーがあります。チラシは自由に置いてください。



流し

歴史を経て、調理器具や食器が自然と揃いました。冬になるとみんなで鍋を作ったりする講座もあるようです。

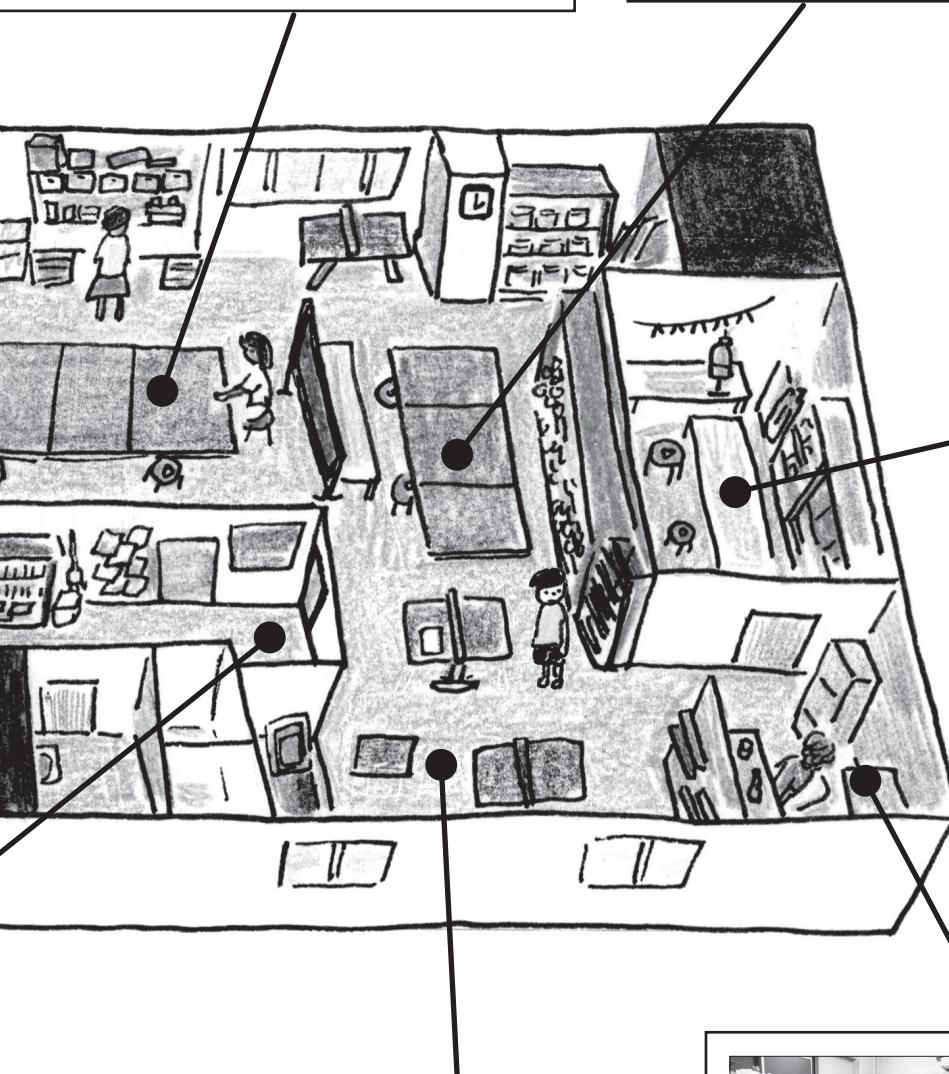
教場 2

教場 1 と同じ広さの教場です。こちらも通常の授業で使用しています。手作りの大きなライトテーブルや版画の製版用の露光機などがあります。



自習スペース

自習や課題の制作に使われているスペースです。長年美学学校に通っている人もここで作業しているので、スペースの使用でわからないことがあれば聞いてください。



暗室

写真工房の授業で使用している暗室です。写真工房の受講生はいつでも使用できます。



水場

石版画で使う石版石の石研ぎやシルクスクリーンの製版、銅版の腐食、アクアチントなどもここで行っています。



事務局

運営スタッフがいる部屋です。入学手続きやご質問はこちらでどうぞ。

イラスト：是澤ゆうこ

ハラスメントに関する基本方針

1969年の開校以来、受講生の国籍・年齢・性別・学歴不問を掲げてきた美学校は、いかなるハラスメントも容認しません。多様な価値観の人が集う場として、すべての受講生・講師・スタッフが、一人の人間として尊重されるよう、ハラスメント防止に努め、万が一かかる事態が生じた場合には、適正に対処します。

1. ハラスメントの定義

当校で起こりやすいハラスメントとして、以下の2つについて定義と事例を示します。下記以外にも様々なハラスメントが存在し、複数のハラスメントが絡み合って生じる場合もあります。

・セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反する性的な言動によって相手に不快感や不利益を与え、就労や就学環境を損なう行為のことです。セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうかの判断は、その言動を受けた本人が不快に思うか否かによります。

スリーサイズなどの身体的特徴を話題にしたり、性的な経験について質問したりする。「男のくせに」「女のくせに」といった、性別で差別しようとする意識に基づいた発言をする。(ジェンダー・ハラスメントとも呼びます。) 性的指向や性自認をからかいの対象とする。ヌード写真などをわざと見せたりする。個人的な指導と引き換えに性的な関係を要求したり、執拗に食事や酒席に誘ったりする。要求を拒否されたために、受講生を展示に参加させないなどの不利益を与える。など。

・アカデミック・ハラスメント

講師等が、意識的か無意識的かを問わず、自身の優位な立場や権限を不当に利用し、受講生の受講意欲や受講環境を著しく低下させる言動や指導のことです。

講義上必要のない授業の手伝いや私的な雑用を押し付け、断られたら叱責する。特定の受講生を他の受講生と差別して、必要以上に厳しい課題を課す。指導の範囲を超えて人格を否定する言動や脅迫的な言動を行う。求められた指導を正当な理由なく拒否する。など

2. ハラスメントを起さないために

何を不快に思うかは個人によって異なります。ハラスメントに当たるか判断がつかないときは、自分の家族や友人に同様の言動が向けられた場合を想像してください。また、講師と受講生の間に、NOと言えない力関係が図らずも存在していないか意識することを日頃から心がけてください。

自分の家族や友人に同じ事が言えるか、できるか。自分の家族や友人が同じ事を言われたら、されたらどうか。家族や友人に見られていても同じことが言えるか、できるか。

3. 被害に遭ったら

不快だと感じる言動を受けたら、我慢せずにそのことを相手に伝えてください。相手が不快感をもたらしていると気づいていない場合もあるので、不快であることを口頭または文書で伝えることで、解決可能な場合もあります。その場で伝えにくい場合や、抗議をしても言動が改まらない場合は、速やかに事務局に相談してください。必要に応じて外部機関と連携しながら問題解決に努めます。その場で拒否できなかつ自分が悪いのではないかと自分を責めたり、他の受講生に迷惑がかかるのではないかといった心配をする必要はありません。相談や情報提供にあたり、相談者や情報提供者のプライバシーは保護されます。また、相談や情報提供をしたことによる、不利益な取り扱いは行いません。なお、ハラスメント行為を受けたら、いつ、どこで、どのようなことを言われたか・されたかといった記録をとっておくと、問題解決時に役立ちます。

【相談窓口】 美学校 本校・事務局

T E L : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00) メール : bigakko@tokyo.email.ne.jp

4. ハラスメント防止のための啓発

あらゆるハラスメントの防止のため、本指針を講師・受講生に配布するほか、希望者には映像資料の貸出や講習の案内を行うなどして周知、啓発に努めます。

プライバシーポリシー

有限会社美学校（以下「当社」といいます。）は、当社の提供するサービスにおける、お客様の個人情報の取扱いについて、以下のとおりプライバシーポリシーを定め、その適正な取扱いに努めます。

1. 個人情報の取得

当社は、お客様に当社のサービスをご利用いただく場合や、サービスに関する情報を提供するために、お客様の氏名、性別、住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報をご提供いただく場合がございます。

2. 個人情報の利用目的

当社は、お客様からご提供いただいた個人情報を以下の目的のために利用します。

- ・入校受付、本人確認および学籍作成のため
- ・学費のクレジットカード決済のため
- ・オーブン講座、公開授業、ワークショップ、その他各種イベントの予約受付等の対応のため
- ・学校連絡および授業連絡のため
- ・資料、募集要項の発送のため
- ・問い合わせへの回答のため
- ・見学、受講相談の対応のため
- ・Eメールマガジンの配信のため
- ・個人を特定しない範囲での統計的な利用のため
- ・上記の目的に付随する利用目的のため

3. 個人情報の第三者への提供

ご提供いただいた個人情報は、個人情報保護法その他の法令に基づき開示が認められる場合を除くほか、あらかじめお客様の同意を得ないで、第三者に提供しません。但し、次に掲げる場合はこの限りではありません。

3-1. 当社が利用目的の達成に必要な範囲内において個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合

3-2. 合併その他の事由による事業の承継に伴って個人情報が提供される場合

3-3. 国の機関もしくは地方公共団体またはその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、お客様の同意を得ることによって当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがある場合

3-4. その他、個人情報保護法その他の法令で認められる場合

4. 個人情報の開示

当社は、お客様から、個人情報保護法の定めに基づき個人情報の開示を求められたときは、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、お客様に対し、遅滞なく開示を行います（当該個人情報が存在しないときにはその旨を通知いたします。）。但し、個人情報保護法その他の法令により、当社が開示の義務を負わない場合は、この限りではありません。

5. 個人情報の訂正および利用停止等

5-1. 当社は、お客様から、（1）個人情報が真実でないという理由によって個人情報保護法の定めに基づきその内容の訂正を求められた場合、及び（2）あらかじめ公表された利用目的の範囲を超えて取り扱われているという理由または偽りその他不正の手段により収集されたものであるという理由により、個人情報保護法の定めに基づきその利用の停止を求められた場合には、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で遅滞なく必要な調査を行い、その結果に基づき、個人情報の内容の訂正または利用停止を行い、その旨をお客様に通知します。なお、合理的な理由に基づいて訂正または利用停止を行わない旨の決定をしたときは、お客様に対しその旨を通知いたします。

5-2. 当社は、お客様から、お客様の個人情報について消去を求められた場合、当社が当該請求に応じる必要があると判断した場合は、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、個人情報の消去を行い、その旨をお客様に通知します。その場合、お客様が抹消された個人情報に基づいて利用されていた当社の提供するサービスは停止され、そのサービスのお客様の利用資格は失われます。

5-3. 個人情報保護法その他の法令により、当社が訂正等または利用停止等の義務を負わない場合は、前2項の規定は適用されません。

6. お問合せ

当社の個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

有限会社 美学校

住 所：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル3F

T E L : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00)

メール：bigakko@tokyo.email.ne.jp

新型コロナウイルスの感染拡大防止について

当校では感染拡大防止のため以下の対策を行っております。恐れ入りますがご来校の際はご協力いただけますようお願い申し上げます。

- ・校舎および教室では常時換気を行なっております。
- ・来校者・受講生の方々や講師・スタッフの健康と安全を考慮し、マスクを着用して勤務させていただくことがありますがあてた承ください。
- ・アルコール消毒液を設置しておりますので手指の消毒にご協力ください。
- ・マスクの着用、咳エチケット、ソーシャルディスタンスの確保などにご協力ください。
- ・発熱などの風邪のような症状があるときや、体調が優れないときは、来校をお控えください。

美学校 本校／事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル3F

TEL. 03-3262-2529 (受付時間：平日 13:00 ~ 18:00)

E-mail. bigakko@tokyo.email.ne.jp

美学校 スタジオ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-6 宮川ビル 1F (袋小路奥)

※郵便ポストはありません。郵便物は本校にお送りください。

美学校 岡山校

〒700-0011 岡山県岡山市北区学南町 2-7-4

LIVE HOUSE PEPPER LAND 内

<https://bigakko.jp>

